

とあれバ其處に一家族落ち合ふあり是れ彼地にて父子兄弟別居せると持前の風俗あれば一  
家族落ち合ふて歡を盡そには祖父の家と親の家とか子の家とか兄弟の家とか一皆な落ち  
合はねばあらぬ都合あるが故あり

豊飯を以て宴會の時と爲すもあり又晩飯を以て其時と爲すもあり突りたる鵝鳥及びクリス  
マス、フツナンツと稱ふる盛物菓子もりものかしの如きは恰も日本の正月の雑煮同様是非此日み添は  
ねばあらぬ獻立あり鵝鳥の間に合はざる所は牛肉にて其代りとあすも少なうらま斯くして  
上等は上等、下等は下等、夫れくは打寄りて歡を盡し此日を樂み暮すとなり

左れば當日は都て店々は戸を閉め倫敦市中の外観は恰も日曜日の淋しさは尙ほ一層甚し  
さを加へたるものにて家内の樂々なき旅客杯の身には随分困却する日柄なり借てクリスマ  
スの當日を過れば其翌日より諸興行觀世物芝居と一年中の當て込み時にて何れの場所く  
も塞がり切る程の始末なり平常閑なき手代番頭職人其他仕事ある者共ハ此の二三日は手足  
を伸ばして氣樂は遊び得る時なれば中以下の遊び場は別して賑はひ榮ゆるなり

●問 英國杯にて通例品物を贈答せるとは日本と同様なる趣なるや如何

●答 品物を贈るとは随分日本と同様なる場合もある様に見掛けられども日本の如く頻繁

よはあらざるが如し先づ英國杯にて品物を贈るは第一婚禮の儀式の時なり此の時よは或て  
座右に置くべき文房具又は花嫁の襟飾腕環其他茶道具の類を親戚朋友より祝ひとして贈り  
遣すと實は盛んある風俗なり少し身元ある人あれば其親戚朋友も亦身元あるが故に其の贈  
り物の多にても中人以下の身代位の金高は積るとありと云へり右婚禮の外よは別に品物を  
ヤリトリすべき定まれる節あり但た田舎は旅行し或は遠國に旅行する時は其地方くの綺  
麗ある産物を歸遣して贈る者は甚だ多に似たり又其他地方より倫敦杯に用事ありて出京せ  
る人々が一夜にても二夜にても其相知れる人の家よ引止られて逗留杯する節は其宿料の込  
種と云ゆる意味にてもあるべきか一寸したる小道具或は額面杯を其家の主人、主婦、娘杯よ  
ソレく贈るも少からず又ママくは面會する知人には一寸したる手締麗ある其地方の産  
物杯を贈ることもあり

英國杯にては銘々の誕生日をば其身に取りてと非常ある一年の祝ひ日と爲すにて男女よ  
限らざ己れの誕生日には其身寄りの者を會し茶話會にて開くか或は少し身元好き所の小  
宴にて開くかする者少なからず又誕生日よは父母たる者は其子に一寸としたる品物にて  
も必らき之よ贈り又子たる者は其父母に對して心計りの贈物をも是非爲す杯誠に床しく贈



しき風俗あり又同居せる父子兄弟の間にては誕生日はソレ／＼贈物を爲す者通例あり就中子供の如きと誕生日と云へば其父母兄弟より種々の玩物類を必らせ賞ふ可きの日ありと心得、心待ちに樂み居る有様あり

又たポアスター、ブック、(生日録と譯す可き歟)とて筆硯文房具杯を賣る店々又は三寸四方計りの手綺麗に拵へたる金糸の小冊子を賣り居れり是は銘々所持して己れの父母兄弟朋友知人の荷送るも誕生日の贈答を爲すべき人々の誕生日を忘れぬ様記るし置くべき爲の手扣よて一年中の月日をば綺麗に印刷しあり英國の子女にして此の生日録を携へ居らざる者あり親戚知人よりあがら其誕生日に音信贈答を爲さざる時は甚だしき不愛想の人の如く思ゆる、とあり

右の誕生日を祝する風は至極宜しきものにて斯る折目切目あればこそ親戚朋友も互ひに其縁を厚くする機會を得るとなり如何に懐かしく思へばとて我心を表するの折目切目一年中に之れなき時の自然其情の薄らぐとも有り勝ちのものなればあり

●問 伊太利にて闘獸場及び古共和政治の時の宮殿の遺物等の外に尙ほ古蹟の面白きもの之れあるや

●答 先づ重なるの嘗て述たる如きものながら尙ほ其他も之れあり今其二二を記さんよ最も奇異あるは地底の住居是れなり是は羅馬帝政の時耶蘇教が嚴禁を蒙りしに當り其信徒が酷刑を逃れて茲に隠れ栖みたる跡なりとも云ひ又耶蘇教徒が唯だ自宗の儀式を以て死者を葬むるが爲先、茲に來りて其の葬式を執行し居りし迹ありとも云へず孰れが信あるやは知らざれども兎も角奇異ある古蹟あり右は今の羅馬府を離れて二十町計りの近郊に在り先づ地面より打見たる處にてハ勿論何事もなく唯だ小さき入口あるの事にて此れより穴道を地中へ這入り往く時は石炭坑の如く無數の部屋ありて其部屋／＼の相連りたる廣さハ十町乃至十五町四方もあるへまとの事あり穴の入口には案内者ありて見物人は之れと共に各々手、日本にて提燈と稱ふる如き細く長さ一種の蠟燭は火を點じ之を携へて案内者と俱に地底に降るあり地底の道は幅は三尺乃至一尺計りの所多く僅か人の往來の出来る迄よて又其部屋／＼の高さも僅か六七尺に過ぎざると覺へたり而して其部屋／＼唯だ土を切抜きたる迄よて實に日本の穴居の如き有様あり又處々ハ柵の如きものあり是れ則ち死骸を葬むりたる所の由あり又アチヲチに不器用ある番風よて魚の形を畫きありて何ある譯のものよや案内者の詞には古代に在りては耶蘇教徒は魚を以て其符號と爲せし者ありとの事



ありしが果して然るや否やを知らず扱て我々は一階より二階は梯子の如く刻みたる所を降り又は上へ登り頻り其邊を彷徨たりしが何分暗黒ある穴の中にて空氣の通ひも十分ならねば甚だ不快ある心地せり

若は彼の古へ有りしと云ふ迷室も同様にて若し此の地中にて案内者を失ひたる時は十五町四方の廣さの三階は成り居る地底は迷ひ迷ふて出るの道を失ひ餓死するの外はなかるべしと云ふ既に先年一人の旅客が道を失して此中に入りし儘出で來らざりしと云へり又た案内を商賣と爲し居る其の肝腎の案内者さへも未だ十分は其路を窺め居らざる由にて通例旅客を案内するは唯だ一通りの定まれる場所へを觀せて然る後地上に現れ出るとあり

嘗て佛人が百五十年前以前著はせし小説を讀みしは其中に西班牙の南部の事を記し耶蘇教徒が回教徒を罰せらるゝを恐れて人知れず穴居したる旨を述べたりしが其折は唯だ小説のソラ事とのみ思ひ居たりしは今更此羅馬の古蹟を見るに及びて始めて其全く架空の言ならざるを覺れり

又右の穴居の近處に耶蘇教の未だ流布せざる以前の古代の墓處あり此の時代は皆火葬

を行ひたる趣にて四五寸許りなる小さな壺に遺骨を納め之を夥しく一室に積み累されぬや其の模様を記せば先づ一棟の家ありて其四方の壁に段々の棚を設けて(尤も煉瓦の柵あり)其柵の壁は彼の壺を一個宛納むる様をさせし淵鉢形の窪み無數あり左れば家の四面一体は彼の壺を列すべあるあり又た其壺の前は燈火を供へたるものと見へ日本にてカンテツと稱ゆる形の燈火皿の往々存し居るものあり

●問 彼地にて一寸買物杯をその時の工合は如何

●答 日本の店にて買物を爲し視るは彼地と著るしく相違あるは懸直を直切るの面倒是あり英佛杯までも隨分旅人を見て懸直を云ふ者之れをさよはあらねども先づ通例は價を貳つよせせと云ふ有様にて云ふ出し直より引ける杯と云ふとは幾んど罕れあり且つ店々の買物の十の七八は正札付ならざるものなく一錢も引けるとなし只た非常は金高の買物を爲す時は先方も事宜に因りて幾分か引くとは少あからぬが日耳曼杯の一二の店は金高に因りて引けたるものありしと覺ゆ巴里の正札付のルーブルの如き店でも金高に因りて引けたる例をあり然れば一概に引けずとも申されざれども日本杯の店と比較する時は懸直もあく直切るよみ及び甚だ便利に手堅く行届きたる事なり然るに日本は歸り些の買物を爲し見る



に十に八九は懸直を云はざる店は少ぶく此方も亦た之を直切らねばあらぬ而倒ありて甚だ不便を覺へたり

又此外は日本の劣れりと思ふは手代子僧の働きの甚だノロくとして鈍き一事あり彼地も在る時は彼地の店の子僧手代杯の働さを左程に手早まとも思はざりしが我國も歸り買物を爲すも及びて始発て其悠々緩々たるも驚き入りたり例せば賣渡せし品物を客人の爲先に包むかこうるとか云ふ手間もても又金の勘定を爲す一段もても日本人の方は誠ノロくとして掛取らぬやうに見ゆると少ぶからせ既し舶來品を賣ぎ東京もて二三と云はる、大店に至りてすらも其取扱の悠長あるもは驚きたり今少し何とか手早くハキくと働いて貰ひたく思ふあり

●問 子守女の事又付彼地と日本との相違せる趣と向さよ承まはりたる次第もては其他の事に付ても同様の著るしき相違多かるべし如何

●答 早く申さば日本にては子守女が子供を連れ行くもすら一切道具を用ひせして之を背負ひ居ると怡む太平洋の蠻族の如くあるも英國もては早や道具の世界となり居れば之を抱ださ行く者もく下等の貧民に至るまで粗末ながらも車を用ひ之に打載せて行るも居るあり

り此の一事もても既し明かき西洋は道具の世界とあり居り日本は未だ身軀手業の世界を離れざることを推察するも足るべし身軀の世界より道具の世界へ遷らざる間は如何よりキむも所詮無駄あり東洋より西洋へ赴きて第一に目立つ所の双方の相違は一方は道具の世界もて一方は身軀の世界あるの一事より著るしきはあり例へば日本ならば門付けをば手もて三味線杯を弾き錢を乞ふを通例と爲す彼地にては通例機械の樂品を用ひ街上も立ちて其の機械の把手をクルクルと回せば自からピアノの如き音樂を奏し此を以て錢を乞ひ居るあり尤も其の中もて手もて樂器を動かして樂を奏し錢を乞ふ者も随分なきもとあらざるところながら先づ通例は右の機械奏樂の方多きも居るなり又著しき東西の相違と日本の坐行車と彼地の坐行車との比較を見合はせて之を知るべし乞食の事あれば深く注文せしよめあらざるべけれども道具を造る職人の巧者ある故もや彼地の燈者は一種の車も乗り居れり之を日本の通常の簡古ある坐行車も比較する時は實も大なる相違ありて我方の唯た板も小さき車を付け棒にてユチ行く丈の事あるも彼は幾分か趣向を運らし二本の棒を動せば機械の働もて車の運動する如くあり居れり元來坐行車のとあれば固より發明人と云へる程の者の之れありしよめわらざるべく只た尋常の職人も注文して造るとあるべしと雖も早や日本杯



よ此ふれば大なる進歩を爲し居れり

●問 英國にて議員大改選の節改進黨保守の兩黨が其選舉に勝敗を争ふの有様は如何

●答 余輩の親しく見聞するを得たるは一昨千八百八十五年の大改選及び昨年の臨時改選の有様なりしが一昨年の大改選に保守黨の内閣敗れて政府の全權に改進黨の手は落ちたる儘五ヶ年の間打ち續きし後の大改選ありしかば双方の争ひも非常に劇しき方ありし由あり英國の内閣が五ヶ年間持ち續くは先づ珍らしき例にて此の百年間も長きは十八九年續きたるものもあれど先づ平均の年数は三年内外を常とす然るも保守黨が敗れてより以來五ヶ年間改進黨の勢力實に旭日の如く一昨年春夏の頃迄は今も十餘年も持ち續くべきが如くに世間にては囁し居たる程なり左れば保守黨は此度の大改選を以ては是非とも勝利を得て政權を回復せんと非常な盡力せざる亦た當然の事と云ふべし去り乍ら一昨年の大改選は到底の勝利は先づ矢張り改進黨に歸すべきや又見へりしなり尤も世人の知る如く大改選の兩三ヶ月前も改進黨は内閣を退き保守黨代りて政權を執り居たる事あれども迎も保守黨の永續せんことの覺束あく政權の再び改進黨の手は歸す可しとの前表に先づ十人の九人迄は認め居たり去り然れども兎も角も五ヶ年目まで久々の大改選あれば双方の用意も亦

た十分行届きたる有様ありき

米國の大統領選舉杯は全國諸州同日に之を爲すことあれば唯だ一日を以て双方の勝敗を決するなり然るに英國の之は古來よりの慣習にて國內の諸州諸都府にて其日割種々違ひ早きあり晩きありて最初投票の始まる地方より最後の地方に至る迄凡そ十五日以上を費やすなり其間日々電報にて各地より兩黨の事務所の勿論新聞社も當て某州にては何黨勝ちたり何都府にては某黨の方當選せりとの報道引さるも切らさず而して新聞社の外面の窓には又た其時々各地の兩黨の勝敗の數を貼出すこと故之を觀んとて新聞社の前は見物人にて黒山を成し居るあり斯く群集して貼出しを觀居る處へ又た一州より改進黨が勝ちしとか保守黨が勝ちしとかの知らせ來りて之を窓に貼り添おゆる時より見物人の中にて其の勝ちたる政黨方の最負ある者もフライ〜とかフ〜とか聲を立て、関を揚げ勝利を祝するも又た負けたる政黨最負の方の見物人のウ、イン、ウ、ン、と聲を立て、呻めくあり彼地の詞めて此の呻きをフタウンと云ふ他國人が聞き居る時は實に笑しなるものあるが不平方を頻り大聲を出だして此の呻きを立るあり左れば選舉の間重なる會同館又新聞社の前は毎日朝より晩まで見物人の絶るとかし實に盛ある有様あり



扱て余等は英國の中よて何れの地方の撰擧の有様を見る可き歟と相談せし處龍動より西北五六十里を隔てたる有名なるボルミンハムの都府は其製造工業の繁昌なるのみならず政治の上は人民の殊に熱心ある土地よて同府の民は各人皆政治家からざるはなしと仇名さる、程あり之よ加ふるよ此ボルミンハムは彼の改進黨中最も世人よ屬望さる、ナヤムベルライの郷里よて同氏の本營と頼み居る地方あり且つ此度の大改選よて有名なるシモン、フライト、氏も同府にて撰擧區を争ひ又保守黨よて今日屈指の人物と稱せらる、チャーチル氏の如きも亦た同府よて選挙を争ふ譯あれば其土地と云ひ其候補者と云ふ此都府こそ先づ英國撰擧の手本とすべき一番の觀物たるべしと聞さしかば乃ち同府よ赴くこと、決したり扱て同府の各區れ投票日と定まりし日の一日前よ余等の龍動より發足して同府よ赴きしが餘り心急さたるま、涼車を乗て過まりて同府を通り過ぎ二十里許りもマンチエスターの方よ赴き中途よて復た他の涼車に乘移りて再び同府に至る杯不都合あること多かりしも同府よ着せし時は幸にして尙ほ甚はだ晩かぶざりしうべ同夜チャンメルライン氏れ演説の定刻には間に合ひたり

●問 引續てボルミンハム府よて親しく御聴きありしナヤムベルライン氏の演説の模様及

ひ其他大改選の景況を承 へり度し

●答 余等の旅宿を定むるや否や直よ同氏の演説の場所に駆け付け視れば早や聴衆は堂内に充満し其中庭までもヒシ／＼と詰め合ひ居り尙ほ其上よ多人數外より推入らんとするを屈強なる巡查十名餘りも立ち塞がりて之を防ぎ居る有様よて中々演説堂内よ入ることは思ひよらざる有様ありき因て一と工夫を抜出し其處よ居合はす一二名の巡查を傍よ招き我々は同氏の演説を聴聞せんか爲めわざ／＼遙々と龍動より來りし者なり何と加して堂内よ入れ呉れよと懇々依頼し聊の心付を興へしかば彼等も外國人の遠方より來りしを氣の毒よや思ひけん今ま暫時待つべしとて種々に盡力すれ共何分雲霞の如き聴衆が堂外より押寄せ推詰め居ることあれば如何とも爲すこと能とぞ一時間許りも庭内よ佇み居たれ共爲ん術をければ余等は痛く失望して早や旅宿よも歸らんかと思居たるに四五名の巡查來りて如何よもして堂内よ送り込べき間我等の間よ介より給へとて前よ二三八後よ二三人よて其間に余等を夾み聴衆を推分けて入口の前よ進みたり豫ねて打合せありしあや入口に達するど斜めよ少しく戸を開くや否や其處よ群集せる人民よ一同よ激浪の如く押寄せ來るを巡查の盡力よて余等のみは首尾好く堂内よ入るを得たり(因よ記す英國の巡查は最も身材の大いなる者



を撰抜すると、見へ左らぬだま丈高さ英人の中より更目立つ計りの大男のみなり伯林、  
巴里、杯の巡査の其骨格身材の大小に至ては逆も英國の巡査も及ぶこと能はず左れば予等  
の如きは其腕下をも潜るべき程の大男が五六人余等を夾みて堂内を送り呉れたることなれ  
ば斯くは首尾能く其中に入るを得たりしなり

扱て堂内に入り見れば立錐の地無き迄聴衆は充滿し居れ共兎に角に尙ほ庭前より人民の  
推合ひ居る程の窮屈なる有様ありあらまを斜にして群衆を推分ければ彼方此方より動き行  
くことも出来たりき尤も椅子杯の如き腰掛あるは只た演臺より近き前の方二三間の所にて其  
他は聴衆は皆な立ち居るなり正面を望み見れば恰も日本の機噺より舞臺を見たる如く一段  
高さ演臺ありて此時のハチヤンベルツイン氏今ま方さに演説し居れり同氏の演臺の前面に  
立ち其の前よりは卓子あり卓子の上よりはコップと水を入れること恰も日本の演説の有様と  
同一なり尤も演説者は卓子の前よりは立たず卓子より離れて近く聴衆に進み近づき演説し居  
れり又た其演臺は舞臺の如くにして其上は少し手廣なれば此區の改進黨の重立たる人々、  
世話人、及び數名の貴婦人の皆な演説者の後より椅子を並べて二十餘名も列席し居れり扱て  
予等の此度、限らま彼地の人より丈低く何分人の肩のみ見へて遠方の有様と見難きが故も

成るべく人を押分けて前の方より進行かんとしけるに聴衆も早くも余等が外國人なるを認め  
たりと見へ口々に「外國の紳士なり前より通せ」と傳呼して成べく路を開き呉れければ余  
等も好き事と思ひ路の開けしを幸ひまやま演説者も近く進み行くに隨ひ益々路開け次第  
より進みて演臺より二三間の所より進み進めれば最早此より宜しと止りしに演臺の上なる世  
話人等は早くも余等を認めしむや其中の一兩人下り來りて其處は不自由なるべし此方に然  
るべき場所之れ有りとして彼の演臺の上より伴はんとしければ余等は幸なる事に考へ導かる、  
か儘演臺の上より登り他の紳士、貴婦人と共に椅子を凭りて聴聞したることなりき此度は限  
らぬとながらホルンハムの人民が外國人を親切に取扱ふの好意と余等の深く感謝する所  
なり之を思へば外國人とは云へば直ち之を敬視する東洋人の風は實に慚愧堪へざる  
なり面相容貌の相違して直ちに外國人と見るや斯迄も丁寧取扱はるゝは万里の他郷に在  
る者の身を取立ては實に喜ばしく思ふなり右の世話人らしき紳士が外國人を驚く取扱ふは  
先づ然るべきことながら演臺より隔たりたる聴衆の多く職人体とも見ゆる有様なりしに  
斯る者共に至る迄口々に「外國の紳士なり」として故さらし路を開き前より進ましむるなど  
は實に感ずるに餘りありと云ふべし



●問 引續てチャムメルライン氏演説の模様を承り度し

●答 扱てチャムメルライン氏の演説は先づ英吉利風の中よては活潑なるものなるべし余等は當夜四五間傍よて近く聽居たることなれば余等の即よも先づ大抵は分明又意味を解し得たりしことなりボルミンハマ府は全体よ氏の部下多ければ此夜の聽衆も大抵は同黨の人となりしなり氏の演説の大体を言へば聽衆をば殆ど掌の中よ入れ居る容子にて其の喜怒を支配し抑揚すること自由自在なるの有様なり其一例を言へば右選舉の時は彼の地面論の事喧しく「牝牛一頭と地面三エー」の語の名高き頃ありければ氏の演説も専ら地面の事に關係し居りしが聽衆の中に一人ノークと叫びし者ありしに氏は直ちに其邊に向ひ「諸君、此處よも一人の地主あり」と笑ひ指せしに之と同時に聽衆は鬨を作て其ノークの聲の發せし方に涙を翻へすが如く推し行きたり聽衆の喜怒は一に氏の言に因りて左右し得べきこと此の如し

演説の論意は聽衆次第にて或は深く或は淺きは勿論免かれ難きことなり氏の當夜の演説を氏か平素議院にて述る所の議論の体に比較するときは實に淺く分り易きを主とせしものと見へ其論意に於ては曾て感服すべき處も見へき只た如何にも聽衆を悦ばし射方に勢をつけ

る勝手の理窟のみを述べし者と評するも可あらん左れば概したる所當夜の有様は先づ一口に言へば政治上の祭禮とも稱すべきものあるべし元來此區は氏の選舉區にはあらず但た其の部下の政友を此區より選舉せしめんが爲に援兵に出懸けしものあり果して翌日の選舉よ此區は改進黨の方に多數を得たることありき

又た説壇の前よは各新聞社の通信者ありて各々傍目もふら筆記したり七八分若くは十分毎よ其書き終りしものを傍らに待居る小使に持たせて銘々の社よ送り遣はす有様杯は實よ忙敷ことありし

扱て右演説の翌日は投票の當日にて則ち兩黨か其の勝敗を決するの日なり豫ねては投票の當日は定めて賑かあることならんと思ひ居たりまに其靜あることは實に意外なりき先づ各區よ臨時一二ヶ所定まれる投票の役所を設け之よ役人出張し居りて朝九時頃より夜八時頃に至る迄の間各選舉人はソレソレ其の役所よ赴ひき投票を爲すことあり其法は先づ三四寸四方の骨牌の如き紙ありて之よ其區の候補者の姓名を記載しあり通例は改進黨の兩黨より各々一名を出すことなれば候補者は二名なれば其中立黨或は獨立黨杯の其區よある時又は改進黨保守黨中よて候補者の相談調はせ一黨より二名の候補者出づる時は右の骨牌の上よ



三四名の姓名を記することもあり左れと先づ通例は兩黨の候補者一名宛合せて二名の姓名を印刷しあるなり扱て選舉人は先づ此役所に進み行きて右の投票用紙を求むることあり其時役人は其者の姓名番地等を問糺し選舉人は逐一之に返答せざるべからず左する時には之を豫ねて扣へある選舉人姓名録に引合せ愈々相違なきに於ては候補者の姓名を印刷したる右の投票用紙を渡すことなり選舉人は鉛筆にて其二名の内己れの好む所の候補者の姓名の上より十文字の印を付け之を投票函の中に投し然して後に出で行くなり是にて其選舉人の選舉の手續きは先づ終れるものなり

右は至極簡單にて甚だ手間の入らざる仕方なり選舉人は只た其選舉せんと欲する候補者の姓名の上に十文字を記して函に投する丈の事なればなり然れども茲に不正の行はるゝと他の選舉人の姓名を偽りて役人より投票用紙を受取り我黨の候補者に一枚にても多數を興へんと試むるの一事にて是には重き罰あり一昨々年の選舉の節も各地方にて往々右投票の賊をなす者之れありし由當時の新聞紙上に見へたりき

●問 其他投票の手續及び自餘の有様如何

●答 投票の始末先づ前記の通りなるが故に外部より覗れば只た投票所に選舉人の出入を

爲すのみにて別に何等の賑かなることもし但た茲に奮くよりの仕來りの残れるは兩黨各々其の重なる躬方をべ別仕立の馬車を以て投票所へ送り込むことなり英國又は嚴重なる投票令ありて選舉の爲は賄賂を行ひ或は賄賂を受け或は金錢を以て種々のことを爲すの皆な嚴罰あり左れば何事も只た金錢の縁を離れ相談づくよて爲すことならては出來ず若し然らすんは反對黨の爲は苦情を申し立らるゝの恐れあり故は通例商賣の馬車杯を金錢よて借入れ之を用ふるは法律に背くが故は其黨内の人の手持の馬車杯を貸渡し之を其黨の用と供することなり選舉の節には各選舉區は兩黨とも各々臨時に其事務所を設けあり其黨中の事をば万端此の臨時事務所よて取扱ふなり左れば右借用すへき所の手持馬車をば多く事務所に集め扱て譜代の黨員其他定まれる躬方の選舉人等が事務所に來るを待ち右の馬車に打乗せ馬車の横は各々其黨の得意の文言杯を貼付け或は其黨の候補者の名前等を記載し此車よて事務所より選舉人等を投票所へ送出すことなり去乍ら是れすらも餘り賑かに見へず先づ一通りのことなり英國よて概したる所改進黨は金満家少なく保守黨は財産家多きが故は事務所より選舉人を投票所へ送る馬車杯は各區共に通例保守黨の方の賑かあるよ勝を取らるゝなり



又其區の候補者の馬車にて時々其區内を乗廻り己の顔を見せて投票人は勢を付け躬方と  
 ますの一手段と爲すなりチャーチル氏の室と素て美人の名ある人なりしが其夫の勝利を助  
 けんが爲す同日も馬車にて頻りて其區を乗廻りし由かれ共余等は行違ひて之を見るを得  
 ざりし扱て此日も暮れて十時頃に至り最早各區選票の結果も布告さる、あらんと待居たる  
 又此の結果を調ぶるよと立會人ありて一々之を監査する等其他鄭重の手續あるが故に中々  
 急は纏まらず十二時前後に至りて始めて結果を警察署の前貼出したり兩黨の撰舉人共  
 結果如何と待て待て眺居たることあれば其貼出しを掲ぐる毎に双方勝負の見物人は黒山  
 の如く群集し居り互に開の聲を揚げて勝利くとて躍り狂ふもあれば負け方は又た例の呻  
 き聲を立てるもあり中々に大騒ぎなり尤も群衆の一番多く集まる所は府廳の前ある廣小路  
 なり愛蘭人民の同府に出稼ぎを爲し居る者等は職人あがらも各々其帽子に白き紙を付け  
 之に「行け、汝の國を救へ」の文字を書して之を正面に被ふり三々五々相伴ふて歩行し居る  
 者も見受けたり勝てば勝ちし様に負ければ負けし様に各々得意あり小言もあり同夜は三  
 時四時迄も廣小路の近處より始んど人通りの絶へざる程の賑ひなりし扱て同日の結果はチ  
 ャムベルライオン氏は勿論ジョン、ブライト氏(何れも改進黨の先輩)も當選せしがチャーチル

氏の反對の候補者のた尤も敗られ直ち引返して龍動府内のマッテントンの區に出て是よ  
 り二三日後又當選せり同氏とホルメンハムにてと逆も當選は覺束なきは容ば知れ居りしも  
 同府は常に改進黨の爲す疎躑せられ保守黨の勢少さが故に同氏を請ふて先づ其候補者と爲  
 せしものなりと聞けり左もあるべしと思はる

以上はホルメンハムの撰舉區の有様を零記したとながら選票の模様兩黨の事務所の有様其  
 他都へて何れも先づ之と同様と知る可し以下より全体の選挙の有様を零述すべし

●問 然らば其大改選總体の有様は如何

●答 大改選の争は先づ其豫期の投票日の畧定まる時より漸々あ始まることあれば共兩黨開  
 戦の端の先づ兩黨の重なる黨員が其撰舉區の人民に對して銘々の意見書を發布する時より  
 啓くるものと云ふて可なり此意見書の發布は兩黨の中一方は先きに一方は後、如き譯み  
 て假へば甲黨の方あて先づ乙黨をして意見を披露せしめ然らば後之を攻撃するを以て勝を取  
 らんと欲する時は成るべく控目にして自分の意見書を發布するをば俟居るべく又た雙方  
 の持論も畧は平日より定まり居ることならば斯る駈引は關せず己れの必ず勝者たるべき  
 の地位を恃み自のら先きんして意見書を發布するも有るべし一昨々年の如きはメラットス



トーン氏が第一に其意見書を發布し保守黨の方は之を俟ち受けて攻撃するより戦を開きたる姿なや又兩黨の中にて未流の候補者等は先づ其黨中の領袖たる人々の意見書の出づるを俟ち居て之に模倣して己も亦た己れ相應の意見書を作て之を其選舉區内の人民に示すことなや兩黨共に其未流の候補者か只た其黨の先輩の出したる意見書の骨髓共言ふべき箇條を簡單ふ少し許り寫し取り書き直し之を己れの意見書として出すもなかゝは笑しく興あり撰擧の時節は諸方を行き視れば處々の停車場の壁杯は其區々の兩黨の候補者より出せし意見書を印刷してあちらこちらに貼付けあるもの多し又た候補者は右意見書を發布せし上は少くも一二回は其區内にて演說會を開くことなり又た其他各黨々々にて内會を開きて躬方の勝利に付色々相談杯もあり凡そ是等の諸會は皆其區々の重なる黨員が世話掛となり之を執行ふなり余等も知人あ伴はれて一夕某區の保守黨の内會に赴きしことあり是は内會のことあれば先づ保守黨最負の譜代の人々のみ集まりて此度の勝利を得んことを相談するの會なるが見渡したる所五六十人許りあり白髮の老翁其半を占め日本にて言へば歳にも恥ぢずと云ふべき程の人々が白髮頭を振立て、頻りに躬方の勝利を工夫する杯冷眼より見れば笑かしき程に熱心なるは感すべき事なり

又た候補者の演說會も保守黨の方は先づ聴衆には豫め入場の切符を渡すこととし聴衆をして勝手次第には入らしめざる向多かりし蓋し斯く爲さざれば反對黨の者共多く入て來りて妨を爲すの憂あるが故なるべし改進黨の方は概して自由集會にて切符を用ゆるに及ばざりし者多し如何も地方は因て反對黨非常に多く亂暴も爲し兼ねまじき場合には切符集會を爲して聴衆を肆まゝに入れざるも時に取ての良謀と云ふべし後來日本にても國會議員選舉の節杯に一黨のみ非常に多く他の一黨非常に少く隨意集會を爲す時は他黨の爲し亂暴なる妨を受くるの恐あるに當ては是非共之を嚴制せざるへからず斯る場合は巡查を用ふることを通例なるべしと雖とも右保守黨の如く切符を用ひて集會を爲すの法も亦一の好手段なるべし

又選舉の七八日前より其區内の處々に貼紙を出し之は「何黨の候補者某を選舉せよ」と大字にて認めしもの多し或は「候補者某平和主義の躬方を爲せ」とり或は「某の主義に躬方を爲せ」とか一二の詞附加へあるものも之れあり其貼紙の大きは通例二三尺四方のもの多し四尺以上のものは先づ見當らざりまど覺へふり扱て爰に奇異なるは黨は因て此の字杯の色を異がへ居ること是なり例せば右貼札の大字を書するにも保守黨は必らず青色を用ひ改進黨



は多く赤色を用ひ故に其字の色を見れば通例敵射方を區別し得ることなり去乍ら地方は因ては改進黨に青色を用ふるものも少からず保守黨よりは吾黨の色を盗みし杯と嘲けり誹るを以て見れば青色は全体は保守黨の色ありしと見ゆ斯く青は稀れは兩黨混淆する事あれ共赤に至ては保守黨の決して之を用ふることをし右の敵射方の紛れを避るが爲み保守黨の中には黄色を用ふる者あり是れ蓋し保守黨の首領たりし故にビーコンスフール候が樹草を愛せしが故に其花の色は象とりて遂に保守黨の一の色と爲すに至りしものと云へり又た青は五色の中より最も久しきに耐へて變せざるものありとの意味より保守黨の方は之を其主義に近く永續の義を表する者なりと爲し古く時代より之を以て其黨の色と爲せしと云へり

◎問 彼地にてメスマリズム或はスピリナムと稱へ一種不思議なる力を用ふる者之れあるやと聞しが果して如何のものにや

◎答 如何も其の事は豫てより承はり居れりメスマリズム或はスピリナムと稱ふる奇術家の内には人の面部を軽く撫で據る眞似を爲し居ると二三分も経つ時は其の術を施されたる人はウトウトと眼りを催ふし又たは旋術者の命を盡るが儘に如何なる舉動をも爲さしむる者あり又た頭の上をソツと手にて撫る眞似を爲すと暫時なる時は其術を施され

たる人の意中を悉くし誦すを得今は爾々の事を思ひ居るならん斯々のことを欲し居るあるべしと之を探ぐり當てる事に妙を得たるものなり又た室を隔て他人が紙上に如何なるものを描きしや如何ある形を寫せしかを云ひ當てる者あり右は折々新聞紙にも見へ又た話しまも聞きたるとあれば一とたび右の奇術家に逢ひたしと思ふ心頼りに起り來りさりながら餘り世間にはありふれざるものと見へこれを見るの機會に出逢はざりしを甚だ遺憾に思ひ居たり然るに一昨年の夏の末頃余等が倫敦西北隅に寓居せしに圖らず其の近所の街頭に右の奇術家現れたることを聞き出せり尤も通例の落語或芝居の如く席を設けて此の術を施し見物人より席料を収る仕組みにて其奇術家は佛人マダム某と云へる者の由頼りし評判せり且つ所々貼り札杯も見受けたりければ之を宿屋の主人に語り「御身は如何と思はる、や斯の如き奇術は随分實事に之ありと思はる、や」と茶飲み話し話したるは彼の主婦は「左ればなり先年我懇意の者が其妻を失ひしに跡に一二歳の小兒ありて毎夜母を慕ひ終夜眠らずして泣き續けて居たりしが遂に不眠の病症となりて其の父親之無論親戚さへ甚だ難澁したりけるさりながら後には其小兒は夜中藥劑を用ひて眠らしむること、なしたれども何分魔睡劑を屢々用ふるに身体に宜しからずとて大に心を傷めける折しも幸ひ其の



邊に眠てを催ふさしむる奇術家ありければ之を雇ひ來りて毎夜其術を施さしめしむ毎時を  
 小兒は能く眠りたるをあり左れば強ち右の奇術の之なきにも非るべし」と答へたり「左れば  
 其の子は後年まで成長したりや」と問掛けしに「如何おも尋常の子供と異るとなく成人せし  
 は親しく我知れる所なり」との答を得たれば今は轉た右の奇術を見物したしとの心を増し  
 左れば兎も角も行て其の模様を試し見んとて二三人打連れて見物に出掛るところはなれり  
 惜て右の興行場に至り見れば通常音樂杯を爲して人を集る場所なりけり先づ場内の芝居  
 場の如く又た通例の寄席は髣髴たり向ふには舞臺の設けあり此方よりは上中等下等棧敷あり  
 り殊に此の夜は既み大入りて見物人は七八百人も場内に充滿し居たり孰れの國の寄席にて  
 む少しく入りのある時先づ第一見物人の充滿するは中等下等の場所にて上等の棧敷は明  
 き間多きか常あるが此の場内も亦同様りて大入なれども未だ上等の棧敷は満ち居らざりし  
 がば余等の連中は則ち此の棧敷にと席を定めたり尤も舞臺より僅りに二三間を隔て居る所  
 なれば都てのを見物するには甚た便利なる所なり  
 己にして彼の奇術家の婦人現れ出ると與に滿場喝采の聲宛あがら湧くが如くして其一人と  
 云へるは先づ三十前後の年齢にて美人と云ふ程にはあらぬども其の人品も卑しからず如何

にも佛蘭西人よ一寸相應ある骨格にて其身軀顔杯は與に少し平たく肥りたる方にて髪は毛  
 は黒く顔の色は雪を敷く程り白くして少しく赤みを帯び其上美事ある衣服をさへ着け居る  
 とあれば適ある品格よぞ見へたりける只た其の目元如何にも鋭く其の言辭舉動は沈着に  
 して最と静うあれども底意の悪しき氣象自うら現れ來り恰も小説杯の形容せる魔法使ひ  
 の女と云へる容貌ありけり同伴せし宿屋の主婦杯之を見て如何にも薄氣味悪き女かなと  
 評したるばかりなり扱て此女の奇術家は先づ見物人よ向て黙禮し其の術の事よ付き聊う演  
 説せり其の大体は「抑もこの術たるや決して怪み驚くべきもの非らず理學上より其の理  
 あるを締め得べきものよて只其の力、世人の耳目よ物珍らしきが故よ之を疑ひ怪しむ者あ  
 りれども右の大なる誤解なり」と云ふにありて何か理學よ縁因せし様演説爲したり右終り  
 て再び見物人に向ひ「我れ只今我術を試みたく思ひ候へば見物人の内より九人はかり此所  
 り御出あらんとを乞ふ又た茲よ申し置くべきことあり此のメソッドの力は多く感する  
 人と少く感する人とあると恰も尙は電氣よ對して多く之を感する人と少く之を感する人と  
 あるが如しされば我術を試みたるよて其の感は少き人もあるならん其の節は代り人を求  
 ひべし又た我術を施す間は我命する所を守らざしては叶はぬことあり我か命を守らざれば



とて此法も感すべきものにあらす斯る人此方より相断るへし能々此の旨を諒せられよ」と云ひ出した

扱て何者が試験を受けに来るやと思ふ内より下等機敷の方より十餘人ばかり出来りしかば其内九人を取りて跡をば断はりて元の機敷へと返へらしめたり何處も人情は同様と見へ中等以上の人は衆人中にて斯る試験を受けんが爲め舞臺に上るは其品格も關するをあらばとて上中等の機敷よりは一人として動くものなく我れ先も出る者は皆な下等機敷の品格を構はざる者ばかりあり扱て此の受験人等は舞臺の上るや否や其数は應ざる丈の椅子を見物人へ面して一列に並べ受験人等をして一之を着かしめたり此の時下等機敷の方よりは、トット一度は鯨波の聲を上げ手杯敲ひて騒ぎ立てし此の試験を受けし出掛けたる仲間をばやししたると見へたり

扱て今や試験を施さんとするより方り彼女は受験人等に打ち向ひ都て何事も我命する如くは爲すこそ肝要なれ先づ各々右の手を出すべしと云ひければ受験人等右の手を差出して掌を開きたり此の時彼女は懐中より直徑二寸計りで見ゆる碁石形の丸き平たき物を探り出して一と受験人の掌の上へ置き「我の留むるまでは臆を定めて一臆此の品物を見詰め居るべ

し」と命じたり右の碁石の如き物は定かよそれと見分け兼ねしが其の而淵形を爲せる様に見受けられたり扱て「其の儘見詰めて我命を守るべし」と聞くより此方の受験人等は皆あ一同に臆目も觸ず其物をのみ一生懸命に見詰め居たが中にも心軽るげある者と見へ時々シロリと見物人の方を打ち詠め或は彼女の顔を見る者もありけり彼女は斯くと見るより其傍らに近か寄り、「左様よと逆むこの術の行はるべきものにあらず疾く機敷を返るへし」とて一兩人を逐返へしたり扱て五分或は八九分も経ちしかと思ふ頃彼の受験人等は其の頭フツと揺らる、様は見へたりしが一人二人其の坐し居る椅子よりバツリと倒れ其の儘は眠り居たり又た他の者を見れば其手を詠めながらユラリと睡り出し何れも久しかりぬ内椅子より落ちて其邊に倒れたる儘睡りたり其の時彼女の碁石の如きものを一々仕舞ひつゝ見物人へ向て「ソソノリズムの力を以て睡らしめたること斯くの如し又た是れよりソソノリズムの力を解き放ち受験人をして元の如くに立ち返らしむべし」と云ひ了りて彼の倒れたる受験人の一人を引き起し己れの顔を打ち守らしめ其の面前まで左右の手を以て「ハ」の字の如き形を爲すと四五回及びし後ハツと叫びて手を叩くと與に受験人はカッと目を見開き正氣付きたる有様よと船も午睡より起き出しもの、如く



顔の彼方此方を撫で擦りつ、伸びしたるばかりなり彼女は斯くの如くして一々受験人の目を覺せしめたる後彼等も向ひ「如何なる心持せしや足下等は今睡りしか如何なる譯もて眠りしや我も語り聞かせよ」と云ひければ彼等は「如何なる譯にや只眠りたるのみよして其譯を知らせ」と答へたり

夫れより又た受験人を一列に並ばしめ「我の顔を見詰めて我爲す通り爲すべし」とて先づ直立して左右の手を一文字に開き再び之を合しては開き開きては合し斯の如くすると十餘回ありしが其の後には受験人等自ら止めんと欲するも止むるを能はせ恰も海邊にてウチ原と云へる蟹か爪を上げて幾回となく打續けるが如く又機械の運轉するが如く右の七八人が驟しく体操運動を初めたるには余等も覺へて失笑したり此の時彼女の見物人も向ひ「若しメモリズムの力を解かざれば御覽の如く幾時間此の開合運動を爲し續くべし最はや十分御見物ありたれば是れよりこの力を解き放せばとて一人つ、以前の如く両手を「八」の字形に爲すと二三回よして其後ハツと叫びて手を打てば受験人は各々マダケたる如く忙然として其運動を留めたり斯くて後ち又云ひけるやう「此次は二人宛聯合せしめ見るべしとて二人をひと組と爲し各左りの手と右の手を一つに組ましめ兩人の肩の密接せしめ

然る後其の襟元より肩の邊を何か頻りに撫で廻はして居たりしが暫くして受験人の組み合はたる者も向ひ「君等の力にて今互ひに組み合はたる其の片手を與ひ引き離し見よ力を盡して引き離し見よ」と教へければ受験人は兩人あがら互ひよ之を引き離さんぞすれども決して離れず然れば善し、君等の力にては到底引き離し得ぞと思ふや如何に」と聞し「如何んぞぞ致し方あし」と答ければ「我之を解き遣かはすべし」とて又た肩先より襟の邊を撫る眞似を爲し手を打て「何れも其手を引き離し見るべし」と云ふも右の者等は其の組み合はたる手を容易く別々に引き離すを得たり

●問 引き續きてメモリズムの事を承りたりし

●答 それより又た彼女は受験人等を一列に並ばしめ「此のたびは受験人一同を笑はしむべし」と告げ乃ち各々よ向て其の術を施しけるに都合七八人の受験者は皆を初めの程のクタクと笑ひ居たりしが後らよは其可笑しさに耐へざる様子にて互ひよ指さして笑ひ合ひ或は見物人を指さして笑ひ出し最初は其の笑み度毎に各々横腹を抱へ居たりしが終に其の笑ひ耐へせやありけん舞臺を轉げ廻りつ、笑ひ出しければ余等も之を見て自から笑ひ出し横腹を痛くしたる程なりき扱て彼女は最早や宜しからんとて一々受験人等の傍らよて



暫らく不思議ある手附きをなし終に受験人の眼前にてバタと手を拍ちしかば受験人等は皆  
 おく夢の覺めたる如くは正氣づき初めて笑ひを留めたり右受験人等の笑ひ方を求めて假  
 笑ひしたるものとと思はれを眞に可笑しくして腹の底より笑ひ出せるものと見受けられた  
 扱て此の次は受験人の右の手右の足を痺れしめて不感ひと爲し或は其の近所の手の達す  
 る所は貴重なる物品を据へ置きて之を取れと命ぜれども受験人等自ら取る能わざりし又た  
 其の最後は至て小供用の衝弄の大鼓喇叭の如き諸樂器を宛てがひし受験人等と恰かも子  
 供の如く更み餘念なく様々の遊盡しを爲すは余等も絶へて笑ひ續けたり此の夜は是れよ  
 て打ち切りとあり皆あく思ひくく散じ歸りたり

さて其の翌日余等の下宿にては此のメスマリズムの一事が一語物となりて彼の受験人等の  
 笑ひ方と云ひ其の所作と云ひ故さらば斯くするもの非を眞に出るものありと云ふ者あり  
 或之を疑ひて左様ある事のあるへさものは非す是れ迄メスマリズム、スピリチウアー  
 ズムと唱ふる術も世間を驚す程の實力なき者多し杯と云へるものあり終に争論の種子を  
 生じぬり其の中も余等の如きは右の力を試したく又た其の理をも究めたく思ひ願かよメ

メスマリズム、スピリチウアーリズム」は開せる書類杯を求め得て其の理を究むへし杯との隆  
 きを爲せし程ありしが去るよても余等は今一應之を確かめ置かざるべからず我々の外國人  
 なり旅の恥は掻き捨て我々自から進んで其の試験を受けんかそれか餘りのとなりとて羞し  
 扣へ此上は何とかして然るべき者を雇ひ入れ其の者も彼の術を試させたと乃ち此の家の  
 主婦は向ひ「金の相應の所迄我々より辨せなければ然るべき職人体の者よても十餘名ばか  
 り雇ひ呉れよ今宵こそ此等の傭人を率ひて再び彼の場へ赴き傭人等も其の術を受けさせ此  
 等の傭人より其の力の感得る時の有様は如何ありしや如何なる心持せしやを聞かしたし」  
 とて其の傭ひ入れを頼み入りければ彼主婦も去る者よて「私共も其理を知り度一事も就き  
 ては尊公方と御同説あり必し力を盡すべし」とてそれより出入の八百屋或は近所の酒屋  
 へ赴きて頼りを受験人とあるべきものを尋ね求めし尋常の者の皆を左様ある奇術を施さ  
 れては如何ある心持するやも測り難し氣味の悪きとありとて一向は募りし應得る者なく爲  
 り其日之事を果さざりし然るに余等と尙も試験の念絶へせして翌日も又た主婦に頼み頼  
 りし傭人を捜らしめし遂に受験人となるべきもの四名を得たり由て免づ其の者等と約定  
 を爲し「我等の入場料は余等より之を辨せし又た彼女の命を奉じて十分に試験を受けた



る上は三シヤリンツ計り(我七十五錢より八十錢内外は替る)を興ふへし若し彼女も別れ  
 けられて試験を受けざる時は別に三シヤリンツを興へせ只彼等の見物得と爲すべし」と申  
 し渡し如何なる者共よやと其の様子を窺ひ見るよ何れも皆廿二三計りの若者よて氣の利  
 きたる様よもあれど随分馬鹿氣たる所少あからせ斯る者にては如何にやと氣遣ひしる他よ  
 隠りに應ずる者なければ先づ之を用ふると決し扱て今夜こそ此等の受験人を突然彼の舞  
 臺を登らしむべしと用意茲よ整ひたれば此の下宿の家内中打ち揃ふて左らば是れより見物  
 よ出掛けよとて皆あゝ余等と與に立ち揃たり

●問 引續きメヌメリズム試験の模様を承りたし

●答 扱て例の刻限よ彼の場よ至り余等の一行は雇ひ入れし者共と皆あそれゝの棧敷よ  
 入れり兎角して幕も開き彼女は例の如く現れ出て又た例の如き口上を述べ見物人の中より  
 十餘名來るべしと求めたりヌメや今こそ余等の雇人も出づべしと眼を注て見てありしに大  
 勢の望み人の中より先づ十餘名は舞臺よ出るとあれり其中に余輩の雇ひたる者二人丈は  
 入込むとを得たり左らば此者共が如何ある力を感ずるやと片唾を呑んで見てありしに其  
 一人は試験を行ふよ及ばずしてムザムザと別れ出されたり今一人は後に還りしかば先づ好し

と思ひ居たりしよ間もなくし其ての者も亦た迷ふ別れ出され余輩は甚だ失望したりしよな  
 りしが又た能く見れば舞臺よ昇りたる受験人の中の二三人は先夜も舞臺よて見掛けた  
 りし受験人よ相違なく備うよ其の顔付きよ見覚えありければ皆ては一抔食せられたりと  
 早や茲に感付さしかば尙ほも其心して都ての事に注意するよ疑はしき事のみ多かりし斯く  
 て其夜も打ち出しとあり皆な打ち連れて歸りし後ち余等は彼の雇人等よ向ひ「汝等如何  
 よして只た二人のみ舞臺よ昇りて他は昇り得ざりし」と問ふに「後邊の棧敷より上等の棧  
 敷の間に一二の關門ありて嚴しく取締り容易よ人を入れず何か譯ある事にや其關門を取締  
 るものが隨處よ人を探きて舞臺よ昇るべきを定めむることにて我々は眞先に飛出した  
 れども右の關門にて支へられりと答え又他の雇人が「彼の舞臺に昇りて受験人よ用ひら  
 る、中よ余の知れる男あり彼の毎夜舞臺よ昇るなり定めて彼女と彼との間に何等かの約  
 束あてもあるとならん」と云へるも可笑しく又た其の他の様子を見るよ甚だ不都合あると  
 のみなりけとば余等の仲間よては「扱ては梅一喰はせられたるよ相違なま」とて果は笑ひに  
 なりしが兎も角よ余等の寡りよ應じたる者共を其の儘は返へさんも氣の毒なれば迎各  
 と一二シヤリンツの金を興へて返へし遣りたり右の始末よて余等よ十分に試験を爲すと能



ハざりしが先づ其の時の有様ハ右の如くなりき。  
 若し深く疑ひを懐きて右の事情を判断すれば彼女の用は供すべき若者を際せ其甘名若しくは三十名雇ひ置き是等をして毎夜替るゝ入れ違ひに受験人たらしむるものなるやも亦た知るべからず或て彼女が試みお際せ其の術を施し其の力の能く感ずる者丈け撰みて之と契約を爲し置きて見物人の前まで之を施すものあるやも亦潤るべからず多分右の兩様の外には出でざるべしと思はる何人と雖も十分右の力は感ずるもの、あきと明白なる事實なり如何も物好きさよもせよ同じ受験人が毎夜無量に現はるゝは兎も角怪しき事柄にして其の力の不十分なるを証するに足るべし右のママ某と云へる女の力のみを就て斷案を下したるまであり然れども廣き世間には如何様の事あらんも知れざれば世上のメスメリズム、スピリチズム、アリスムと概して皆な右の如しとは云ふべからず其の後彼地にて人に逢ひ偶々此の話しお推し移る時其人の話しを聞くは其の力は感ずる者も稀にはあることなりさりとて若し十分は感ずるものはあらずと云ふ彼地は遊びし人の中は定めて右の類を見分せし人もあるあらん余等が出逢ふたるは右のママ某一人にして其の他は不幸にして之を實驗することを得ざりしあり

●問 彼地の人には煙草を嗜む由り聞き及びしが其の様様如何

●答 先づ倫敦を一例引て申さば如何にも煙草を嗜む人は澤山なる様なり去りながら余等の如き他國人が倫敦市中を彼方此方と徘徊して見受けたる所お據れば巻煙草をふかしながら往來途中を歩き居るハ紳士に少な々概して下等社會の者多し就中大ある雁首に一パイ煙草の満ちたる煙管をくもらしおながら歩き居るハ大抵下等の職人に限れるが如し又或ハ煙管製の白々長き煙管を咬へ居る杯は別して職人中に多し途中咬へ煙管まで歩くは倫敦巴里共に種々下品なる人物まで身元善き紳士は稀ありと云て可あるべし且つ倫敦杯にては中以上紳士まで出入共ハ手馬車を用ふる人は格別なれども其の外の或は瀟車或は乗合馬車、鐵道馬車等に乘る者は先づ煙草を吹はぬ方多し尤も瀟車は別に喫煙室の設けられども乗合馬車、鐵道馬車等まで一切煙草を禁じ居れりさるから途中煙草を喫ながら歩き居るも馬車杯は飛び乗る時の忽ち之を捨てねばならぬ次第なり右の如く或は喫み或は捨てるの不便あるを以て途中煙草を吹ふもの自から少なきものと見へたり

倫敦まで先づ良品と云へるハ葉巻煙草(シガー)及び紙巻煙草(シガレット)なり又た大ある雁首ハ煙草を詰込みアカリくと云ふすは先づ品柄の悪しき方なり自分の書齋杯までは斯る



大煙管を用ふるものあるも知人の家を訪問する時杯は餘りに見掛けざる所なり又た價の上より云ふも葉巻煙草はなか／＼高價あるものにて一本十二三錢乃至廿錢計りなるものは通常なりされば貧人が之を嗜むは甚だ不經濟と謂つべし之より比すれば大雁首は詰込込む煙草の方甚だ廉なりと申すべし刻煙草を紙めて拵り込めて紙巻煙草と爲し之を喫ひは改りたる席杯にて多く見掛けざる所なりさりながら右は甚だ廉價ある故に或る所の店先は開き居らざるのなしされば相應に身分ある人も之を喫むこと見へたり

日本は歸り見れば西洋煙草大に流行し居れり蓋し二三年前と比較して著しく進歩せしものは西洋煙草を吹ふこと、思はれ實に予輩をして驚かしめたり今斯く日本に西洋煙草を用ゆると流行する上からは彼地の煙草に關する風儀を日本は運び込む人も亦た甚だ必要なるとあるべし是迄の日本の煙草あれば其の薫りも強からず従つて煙草を好まぬ人の傍にて之を喫むとも左迄先方の迷惑は非らざりしが西洋煙草は之に反し概して其の薫り甚だ強く煙草を嗜まざる人より其の煙と云ひ薫と云ひ甚だ難澁あるものと謂つべし彼地にては何れの所までも不遠慮に煙草を吹ふとを許さざるの風儀あり是れ必竟煙草を嗜まざる者をして不愉快を感じしむるの恐れればなり右の最と然るべき風儀と申すべし日本人にして西洋煙

草を用ふる程なれば此風儀をも採り用ひて煙草を嗜まざるものに迷惑を掛けざるやう致したきとなり尤とも紙巻煙草の方は左程甚だしからざれども葉巻煙草に至ては煙草を嗜まざる者の迷惑すること少なからず此等の人と對しては少しく遠慮ありて然るべきこと、思はる

英國杯にて煙草は男子の嗜むものにて婦人は一切嗜まざるを嚴しき掟の如く者へ月れり薫り強き煙草を喫む時は自から厭ふべき臭氣を身も帯るが故に婦人にして其の註心を凝らすもの、之を忌み嫌ふは當然の事と謂つべし譬へて日本の婦人が惡臭を厭ふて種類を忌み嫌ふへるは異ならず若し西洋の煙草もても日本の煙草の如く其味軟かにして薫り少きものならんには彼國の婦人と雖も之を嗜むの風俗を生じたるものならん彼地の婦人、日本の婦人が煙草を喫むと聞く時は驚いて打ち笑ふと往々之あり然れども右に煙草と云ふ名のみを聞きより打ち驚くものにして其の實際を知らざるものあり又巴里杯にては紙巻煙草の其の味軟かなるものと随分婦人にて之を嗜む者少なうらんと云へり若し其の薫り軽く味軟かきものならんには之を嗜むは決して怪しむべきこと非らざり日本に婦人が煙草を嗜むも蓋し之が爲めなれば左迄非難すべき程のことにて非るべし英國にては婦人の對ひ最も強きが故に婦



人の前よては其計可を得されは何人と雖も喫煙するとなし但し日印曼杯よ於ては煙草を吹ふもの婦人あ慈恵すると甚だ少き様も受けたり

●問 芝居の事は一應大畧を承りしが尙ほ詳細の模様は如何

●答 當節は日本にて芝居改良杯と芝居の事は世間の談柄とあり居るが故に少しく詳細の處を述んに嘗て記したるが如く彼地にも芝居に色々の種類あれば一寸之を我國の芝居と比較しては言ひ易からざる場合あり然れども今先づ日本にて盛んに行はる、通例の芝居なる者と粗ぼ同じ種類のものと引き來りて双方の異同を示せば尤も余等は日本の芝居に精はしからざれば道具立所作事、其他の名稱に至ては専門家より之を觀ば必ら不都合ある處もあるべし去り乍ら先づ一通りの事を左に述べべし

東西與に人情の左して異りあさは實に争ふ可らざる者にして我が芝居と彼の芝居と善くも相似たる所あり其の一例を擧ぐれば我國にてマンマリ杯稱し賑やかある處より俄かに變じて寂寥たる暗中の模様となるに至ては其の闇くあると共に幽かに沈みたる暗き音色の三味線とありチリチリとチン杯と寂しき調子を見するとあり彼芝居にて三味線をこそ用ひざれば是と同様に如何なる樂器なるかは知らぬとも明闇俄かに變じて暗中の光景となる時は

亦た微かにチリチリとチンと寂しき音色を奏するとあり是等は双方與に幾と符合したるものと云ふべし又た我芝居の彼より勝されりと覺へられ彼に無くして我に有る所のものは床の淨瑠璃の仕組なり其の一例を擧ぐれば我方に在ては舞臺にて喜怒哀樂或は沈黙の所作を演ずるに方り當人は勿論無言なるに床の方よて三味線あ合せ文句を語り舞臺に動き居る當人の胸中を説明すると通例あり然るに彼方よては一切斯る仕組之れなく事を叙し或は當人の所思を見物人よ示すには當人が獨語を述べ立て、自ら之を説き明すとなり之を區別すれば我方は當人が黙して傍らよ説明者を置き之を述るに彼方よては當人が自分自身獨語にて之を演説する譯なり此の區別は則ち我芝居と彼芝居との間に大なる相違を生せまめたりと思はる、所多末彼方に在ては舞臺にて動く當人の外は傍らに説明者なきが故に當人が胸中を説き明を獨語の處は最も大切ある關目をなし其の文句杯は最も作者の力を要するとなり又た役者の之を演説するにも其の言廻しに大なる巧拙あり皆な茲を顧みて骨を折るとなり故に然るべき演説風の文句は自ら彼方に多くして我方よ少くあるの傾をば生むべき筈の譯なり

右の獨語と淨瑠璃との區別は著しき彼我の異同なるが果て其孰れが優り孰れが劣ると云て



、双方共々各々一得一失にて場合又因ては當人の獨語するも似合しからず矢張り日本の如く傍らよ説明者ありて文句を述べて之を説明する方の優れる處もあり又た彼方の如く當人自から説明して傍らより他人の説明せざる方の優れる處もあり一概に一方のみ必ず優れりとの斷じ難し左れば逸やりて彼の真似のみを亦するも如何あるべき歟先づ淨瑠璃の什組杯は日本劇場中の自然と生じ來れる一種の妙味なれば之を有するも然るべしと思ふ向も定めて我芝居學者中よ之あるべきとなり日本よても能樂は彼の芝居の如く當人自身よて萬事を説明する仕組よて先づ舞臺よ現れ出ると「是ハ義經殿の御内よて忠信と申し候」杯と當人自身よ名乗り出で萬事胸中を獨語するなり稍や彼の芝居よ似たる趣と云ふべし蓋し我國の普通の芝居と元と或て人形芝居なれば一方の淨瑠璃の説明者ありて人形が身振りを爲すのこゝろし仕組の世と共々推移して遂に役者の動く今日普通の芝居よも其典型を傳ふるに至りしもの歟兎に角よ此の一事ハ我は彼よ劣らざるのみならず或は優り居るものなるべし又我國よは出語りとか稱し所作事を爲す節には音樂人一同異様ある上下杯を着け舞臺の上よ現れ列ありて音樂を奏するにあり斯る事の彼方の芝居よは一切之なきことあり尤も嘗て記せしが如く音樂人は十五名二十名若くは三十名打揃て黒の禮服を着け白襟よてソレソレ樂

器を携へ舞臺の下土間の最先きよ出席を見物人と同様舞臺の方よ向て並び居ることあり故よ舞臺より見物人よ對して云へば先づ第一よ音樂人其の次よ土間の見物人並び居る譯なり

●問 尙ほ所作事等よ付き彼地と我國との芝居の異同は如何

●答 我國よて所作事とか稱する妙なる身振りは彼方よては幾んど之なきものなり畢竟するよ所作事、物語、杯は傍らより意味を説明する淨瑠璃に合せて出來したるものあるべければ淨瑠璃なき彼國に所作事なきも亦た當然の次第あるべし初め彼地の風俗よ慣れざる間は芝居の所作も尋常人の動作も差して違ふと云く彼地の芝居は言語動作與も幾んど平常の有様よ同じと思ひ居たるとなりしが少しく土地慣れて其の一般の言語動作を呑込むよ付け始めて芝居と矢張り芝居よて其の言語動作は又た一種の振合あり世間平常の言語動作とは大なる相違あることを知るを得たり何れの國も芝居と芝居よて子供だましの如きものあれば普通一般の言語動作よては面白るうらす随つて是非とも一種格段なる振合を生せねばならぬ等なり去り乍ら若し之れを日本の芝居の言語動作か尋常一般の言語動作よ對する懸隔よ比すれば彼地の方は尙ほ兩者の間だの相ひ近き方あり彼地にては「芝居風の身振聲色」とて笑ひ評する詞に用る程のとあり如何に眞に近く見ゆればとて芝居は自から一種の芝居風あり



るものなり

但だ我に在て彼になきものは足柏子の一事なり則ち拍子木よて一と足二た足の足に合せカ  
 マリくど板を敲く一事あり斯る事は彼地の芝居にては一向に之を見しとあし我が右の拍  
 子木に慣れし目を以て彼地の芝居を見る時は大に拍子扱けして面白からぬとあり然れば  
 日本にては右の拍子木も存し用ひて可あるべき場合も之あるべし就中立廻りとか唱へて争  
 闘を爲す場合杯に力足の拍子なくては面白からず芝居學に拙き余等の者よりするも場合  
 に因ては矢張り柏子木の離しある方然るべく又た斯る離しの用法あるも進歩の一に算ふべ  
 きものあるべしと思はる升平の長く續くは一般に文學の事をば進歩せしむるものなるが徳  
 川氏三百年の升平は芝居の進歩にて非常なる助を與へたるものあり幕府三百年の治世中何  
 物か最を抄りしやと問へば蓋し芝居程著しく進歩改良せるものありらざるべし然れば今日  
 我國に用ふる所のものは一概に不都合なるもの、とあて非すと知るべし  
 立廻りとか稱へて斬り合組み合杯の事を比較するは我方は飾り多く彼方の飾り少く彼の眞  
 に近く我は如何なる餘りやウツク敷思はる、あり例せば彼方にてハ劍を抜いて打ち合ふ  
 も二た打ち三打ちにて直ちハ勝敗の定ると多きは我方よてハチカク二た打ち三打ちのと

に非を長きものは五十合百合にも至ると少あうらす然れば孰れが眞に近きと問へば彼よし  
 て我よ非す然れども芝居は元と是れ芝居なれば若し芝居として眺めんよハ肝腎ある人物ハ  
 只二た打ち三打ちよて勝負を定むるは餘り本意なく見へて面白からぬ場合もあり然れば我  
 方の立合ひの間の長さも亦た一興と云ふべし兎も角芝居は芝居よて慰み物なれば眞偽を問  
 ふよ及ばず只だ場合に因て面白ければそれよて宜し餘り猥褻の事ハ少き様注意し又た慘酷  
 の事あき様は慎むあらば先づ議論は其處まであり其れより以往は只だ見物人の興に入るを  
 勉むれば最早や芝居の役目は済みたるものなり何も六ヶ敷く云ふよも及ばざるべし然れば  
 立合ひの長短も飾り多きも飾り少きも兎も角見物人の目に面白きが然るべき歟

●問 彼地の芝居にて慘酷の所作をば慎で避るとの事は如何

●答 彼方よては上等の芝居程慘酷の事をば甚だ慎み之と見物人の目よ現はさるあり例  
 せて然るべき人物が打合て一方は小腹を突かる、体ありとせんよ其突れたる方はマダく  
 くとヨロシキテ傍の柱壁杯にも寄り掛る拍子にマダリと倒れ其の柱の蔭よありて最早や  
 姿よ見へぬなり苦痛し乍ら死する有様杯は多く見物人よは觀せぬとなり又た餘義なく血の  
 出でしを現す時よても只白シヤツ杯よ一二點の血痕を示す迄あり從來日本の芝居にて最



後の時赤色の辰縮杯が腰の邊より垂り下り又た其口中よりは血を噴くかどに此すれば實に雲泥の相違あるなり總体に彼地の社會は行儀正しく猥褻慘酷のとは言語にさへ慎しむ程の世の中あれば芝居杯も斯くゐるべきと怪しむに足らざり又た日本の社會の都て無作法不行儀として士君子と雖も衆人廣座の中にて直ちに歌舞の物語りを爲す等の不取締りある世の中にては芝居も夫れ相應に無作法千万なると多きも亦た餘義なき次第あり但た後來は今少し改良したきぞのと思はるゝあり

又た彼の芝居には日本にて云はゞ花道あるものあり只た舞臺の左右ある兩角の口より出入を爲すのみあり日本の芝居學者中よりは花道の事へ付て大議論ありと聞しが右の花道も一種の物あり是も徳川氏升平中より我芝居の進歩したる一証あるへし遠方さして去る有様或は遠方より來る有様杯形容するよと此の花道の有ると無きとは大なる興味の淺深あるとなり然れば我々之不巧者ながら他日然るべき大なる劇場の出來するところも此の花道と日本の芝居も一種固有の物とて存し置くこそ却て外客をどの目には賞美せらるゝことあるべしと思ふ

●問 彼地の役者、舞臺、等の有様は如何

●答 日本にては女は女のみ一座男は男のみ一座ありて一座を興行するとあれども彼地にて一と芝居は男女混浴して男役は男、女役は女、よて之を務むる故人情を寫すよと甚だ都合好きと多去り乍ら女役者と云へる者と随分世間の風儀を亂るとよて女役者の爲めに之種々の事を惹起したるとも彼地はハ澤山之あるなり然かし是も強て咎むべきとも非ざるべし若し後來我國の芝居は男女を打混ぶること爲せばそれよても宜しかるべし年老ひたる男が如何に粧ふとも女の身振りを爲す處杯は餘り見好きものに非を執れと云へば女の役は女役者の勤むるこそ興あるべし其初めは我國にても男女打雜りの由ありしが女役者の風儀を亂ると甚しきより幕府の爲に禁制せられ遂に今日の如く男子のみの世界とは變じたりと云へり左もありしならんと思はる

何事に限らざ芝居の世界にて彼地の方便れること多き中にも先づ劇場の建築結構の綺麗なるは勿論其の舞臺道具立萬端の行届きたるは又更らば美事なり日本の畫に比すれば西洋風の油繪は殊に眞に迫るの模様あるは世人の知る所なるが其の油繪にて妙技を盡して描きたるもの多ければ眞物よりも一層場合宜しく思はるゝあり一寸見受る所よては家屋杯の如きものは其の骨組は木或は鉄よして其の上を切地にて張り之に油繪よて壁は壁の如く彫刻物



は彫刻物の如く描きたるもの多し又た樹木杯の其の幹だけは兵物を用ひ其の枝葉をは切地に描きッを切ア抜きて着たるもの多し是は造作もなきとながら大は趣を添ゆるものにて粗末千萬ある造り細工の枝葉が見苦しき迄は幹は下下り居る杯は比すれば華ろ枝葉を描きたるものを切り抜きて着けある方甚だ視勝さりせるなり

道具立の變る時の仕掛之色々あり或は左右よりノリノリと開きて改むるものあり又ハ都て空中より掲げて景色を改むるものあり蓋し是等の仕掛ハ其建物の大小性質も關するとなるべし

嘗て一とたび廣狹を記載する方り彼地の大ある芝居も其の正面の廣さと新富座の劇場程あるまじと記し置さしが今日より者ふれば大ある誤りにて彼地の物は何に因らず規模宏大なるが故に狹しと見へたるものも其の實は甚だ廣きことにて歸朝後鶴と彼我の事物を者合し比較し直す時は最初の想像の相違するところ少からず舞臺の如きも則ち其一にて少し大ある舞臺の正面の廣さはナカ〜新富座杯よりも遙かに廣きとなるべしと思へる兵物の違はぬ二頭牽きの大馬車或は荷車杯がサ〜と何の障りもなく舞臺を往來するを見れば餘程廣大あるものあり

●問 彼の芝居の馬杯は如何又ハ其他の事にて我との異同ハ如何

●答 馬よても車よても通例は先づ兵物を用ひざるとなし馬杯も定めて善く馴らしあるものと見へたり去り乍ら孰れの芝居よても舞臺に接近して見る時は其舞臺の上の穢さよハ蓋さたり他の部分は先づ飾り粧ふか故は左程よもあらざれども只た舞臺の上のみは殆んど地面同様の有様あり蓋し我方よては舞臺の上お坐はりもあせハ腕つさもあす次第なるか爲よ自から之ハ注意して光澤あるまよハ拂拭も行届き居る譯なれども彼方よては元より斯る事あきか故は斯くは汚れ居るものあるへし然れども兎も角に他の万事に比較して其の穢さには驚きたり

佛蘭西・伊太利の境あて千戸計りの小都邑は宿せしとありしが別に知人とてもなく客窓蕭索甚だ無聊に堪へせ折しも宿屋の主人の話に今夜芝居興行あるとのとあれば田舎芝居を一見するも面白からんとて心に輕蔑しあがら其の場所よと赴きたり云は、一山村よて勿論繁華の地と稱する處よもあらぬあれども尙ほ其の舞臺はナカ〜ハ美事なるものよして新富座杯の企て及ぶへハ所ハ非す其他の事も万端之ハ應じて一切整ひ居たりしは誠ホ意外せる程ありしか但た田舎廻の役者のとあれば其所作は感服せざると多かりしが中よも下稽古



も不十分なるう故往々セリフを忘るものと見へ傍らより之を教ふる者附き添ひ居ることなり  
一寸正面より見たる所の舞臺の中央の處で恰も日本にて子供を寝かすに用ふる母衣蚊帳  
と云へる者の如き黒く圓く西瓜を半截して伏せたる形の蒲鉾なりの物あり其高さ二尺計り  
廣さ三四尺もあるべき乎此の蒲鉾なりの物は見物人に向へる方へ圓くなり居り役者も面せ  
る方は切り落しとなり居ると見へ彼のセリフを教ふる者は此の蔭より口上を述ると役者は  
之を口へ移して舞臺まで動くなり尤も伊太利語なれば余は其義を一々解し難うしかど  
も宛角女役者杯が何かセリフを述べへき順序の時に先づ例の蒲鉾ありの中より低音よ  
て物言ふ聲漏れ役者は之を辿りて述ふるさま頗る見苦しく覺へたり去り乍ら日本の黒坊が  
背後へ附き居るよ此すれば或は寧ろ此の方を優れりと思ふべき乎後ち聞合すれば舞臺の上  
よ右の蒲鉾ありの物あるは佛國にては珍らしからぬとありと云へり然れども倫敦杯にては  
通例の芝居にて一向見掛けざる事共なりしなり

●問 一体の芝居の趣向は彼地と日本との異同如何

●答 芝居の種類ハ數多き故に其の趣向筋書を比較するも亦た甚だ容易ならず嘗て粗ば申  
せし如く芝居の種類も色々あり其の言辭都て歌を以て演ると日本の能の如きものをオベ

ラと名付く又た言辭其他のセリフの歌の如くせせして通常の辭の如くするものをシエター  
と稱す右二派に属するものにして種類の異なるもの甚だ多し又た芝居のシエターの中にも純  
正のものど滑稽のものどあり左れば日本にて演ずる芝居の種類は彼地の種類多きよ及ばざ  
るものと云ふべし

●問 あらゆる種類の芝居を籠め其の中にて最も面白く思はれたる芝居の有様を承りた  
し

●答 余等は甚だ芝居の事と拙く日本にて三四年一度見物するかせぬの人物あれば甚  
だ不案内ながら最も短くして最も面白くしと感したるは左の如き筋の芝居あり尤も左  
の芝居と只た一と幕のものにて有名なる女優某の爲に當時英國にて有名なる作者ギルベルト  
が之を組立しもの由今其の大要を畧記せん但し其の筋は都て歐洲の中世の有様にて佛國  
よ起りたる事柄と知る可し

幕開く時は美事なる上等社會の住居にて宏大なる一と間あり椅子、卓子、は勿論窓掛其外一  
切の飾り付けは幾んど貴族のとも思はる程にて何不自由なき暮しと見へたり情て奥より一  
個の美人盛飾して出で來る此の女子は當家の主人にて當時世は時めきて持はやさる、有名



なる女優あり衣裳より腕輪・髪飾、に至る迄一切善を盡し美を極め金よあかして飾り立たる姿あり此時又た一人の女子出て来り一二の間答あり此女子は主人の妹にて姉の技藝の世人に賞勸さる、より何不足なく慕すよかて、加へて毎夜の如く當佛國の許多の貴公子此家にお來遊せらるゝ此の上もあき榮華と云ふべし云々との口上あり其時主人なる女優ハ「好き事もあり悪きこともあり殊に數多き貴公子の中よも御身の知らるゝ彼の貴族某氏の如きハ我身よ定まれる夫あるを知り乍ら情を通せんとして附き纏ふ者細さよ去り乍ら若し一旦よ之を拒絶せば盛成ある彼の悪貴族は忽ち我身に仇し不幸を來すも料られずと今日迄ハ毎夜の如く其の機嫌を損せざる様操りて過するものよ吾が心中の苦しきは御身も推量し玉ふべし餘處外より之を見れば吾が身の上を榮華ありと羨む者もあるべけれどと裏と表は相違ありて苦しきことも多かるものを」と思はせ獨り嘆息す其時妹ハ「今夜も亦た來賓あるべし坐敷の用意を爲し置かんくと二階へ昇る暫して引違へに入來るは女優の夫某あり其妻ある女優も向ひ「御身も定めて疾く知りつらんが今朝些々の事よりして衆人稠座の其中にて彼の御身よ懸慕する悪貴族の爲め言ふ可からざる非常の辱めを受けたれと我は即座よ對手を打果し耻を雪んとも思ひしが對手ハ各よ負ふ貴族よて左右従者も多ければ逆も本意を達する能

ひ若かじ機會を待たんよはと無念ながら涙を吞て歸りしと渠と一とたび決闘して此怨を露らさては我は以後世間よ立つべき面目あし今は早や死を決して彼人を打果さんと覺悟せり思ひ合たる二人が中も早や哀別の時至れりと覺ゆるぞかし」とて涙を含み物語れば之を聞くより女優は打蕙れて力なく考へ居る此時其の夫ハ復た女優を向ひ「察する所今夜も亦た彼の悪貴族ハ此家よ來り遊ぶべし然れば御身何卒して我よ引合せ呉れよ我より決闘の所望を爲さん只た肝要あるは渠が多數の従者をして決闘の場所よ近つかしめすして只た兩人雌雄を決するにあり吾が手練ハ勝ぐれとも人難せもせず職こゝ本意を達する事もやあらん此義を御身能くすべき歎」と聞いて女優は思ひ込みたる氣色よて「左様なる事のありと早く知らば無事よ計らふ手段もあるべきよ今となりては最早や詮をし止め参らすともよも聽き入れ玉ふまじ左らハ潔よく勝負を試み死生の運を天よ任せ玉へ我身を畢生の力を盡し何とか思慮を運らして彼の貴族の従者をば其の主人より引離す様に工夫せん」と意を決して答ふるうちにも愁然たる有様は面に顯れて掩ふ可らず見ゆ

問 芝居筋書の續を承りたし

答 女優の詞を聞くよりも夫は太く打蕙び「シテ我身は如何よして彼の悪貴族と相見



るへき敷」と云へは女優は「左ればあり樓上よて遊園なはある頃よ我身用事ありと伴てり此座敷に降り来らば彼人も亦た我身を尾引引續きて降り来るべし其の時御身は此の隣室より出來り思ふか儘よかし玉へ」と云へは夫は益々悦びて「左らば何分頼み入る必らず事を誤り玉ふち」と辞を遣して名残り惜し氣に隣りの室に入り行くアト目送て彼の女優は打葦れたる思入れありて暫時思案よ暮る、体あり此の時取次の者出で來たり「貴族某々君御來遊に候」と告れば女優は驚て、涙を拭ひ形を正して待受け居る程なく入來るは五六人の貴公子よて孰れも佛蘭西中世の支度あて劔を帯ひ髪を戴き膝よ達する計りなる靴足袋を長く穿ち各々六七名の從者を幸ひ此の席に進み入る女優は恭しく禮をなせは貴公子等は又た之を退へし「相變らず端麗ある御様子を見て皆さく満足したり」と述べれば女優は高貴の御方よの屏けさく來遊せらるゝの幸榮を述べ此の處にて暫時は何くれとなく物語り居る内復た取次の者來り「貴族某君御來遊あり」と案内す之よ連れて入來るは則ち彼惡貴族の某あて其の身体は肥滿り其の容貌逞ましく早や見物人をして面憎く思てしむる様よ打扮せり此の貴族の女優は對し挨拶終り少しイヤミの口上杯ありて前の衆貴公子と茲よ一座となる此時女優は來賓に向ひ「イヤ二階の廣間にて御禮應仕らん」と案内すれば諸人は從者諸共に皆其の地

位の高下よ從ひ先後の序を盡へつゝ、女優に導かれ二階の廣間は昇り行く

暫くして女優は二階より下り來り始し此席お憩ふ内彼の惡貴族某は果して女優は跡を尾け又た此席に降り來りそれより女優に向て其の愛情を述る種々の仕打あり女優は夫ある者なればとて体よく會釋し居る時を見すましサツと扉を押し開き顯れ出しハ女優の夫「如何よ貴公子ヨモヤ忘れは仕玉ふまじ今朝衆人稠座の中よて某に對しヨクも彼程迄の辱めを與へ玉ひしぞ縦へ他位に異るとも誰か其の面目を重んせざる者あらん思ひも掛けぬ此席よて貴殿お對面なしたりしハ天の某を恵む所是非とも貴殿よ對して某の満足を要求致さねばならず御覺悟あるや如何よぞ」と様子を變へて詰り寄れば彼貴族は苦笑ひし「切ても仰々しき其の辭若しも金錢よても所望とあらば如何程にても參らせん左様ある體呼はりは自から損害を求むる者なり料見あつて然るべし」と太と横柄にアシラへば女優の夫は赫と急立ち「如何に貴族あればとて他人の名譽面目を傷るの自由ある可からず金錢杯とは事笑し縦へ貴殿は如何様よ通辭を述べ玉ふとも此の儘よは濟む可からず刀に掛けて名譽の満足御承知あるや如何よぞ」と其の傍らよ詰り寄れば身軀長大よして相貌逞ましき彼の惡貴族は小癩なる小童奴と云はぬ計の容態よて斜めよ此方を打眺め「刀よ掛けて満足とは笑止千万去り乍ら強



て所望どあるあらばヨシ、拙者も承諾せん、いつ何時にてもあれ汝の求めに應ずべし」と聞くより此方は尚ほ詰り、「イヤ」とも云ふ、只今此處にて」「今と云は、今にも命を断ち呉れん我等も今こそ窟強おれ」「彼方の庭こそ」「左らば勝負の成度せよ」と兩人戸を開き外面の庭より立出る

●問 其續は如何

●答 女優はアトを目送り乍ら此室の扉をバツリと閉ぢ夫の死生如何よぞやと憂は面に顯はる、折しも樓上なる衆賓及び彼の悪貴族の從者等はトヤ、と降り來たり主の女史は孰れも在らず皆なく、待詔び居るものを」と其の邊より坐並びて、扱も某殿には「悪貴族を指す」何處へ行れたるや」と云ふを打消し彼の女優と「只今用事有とて他の室より入らせられたり最早や間もあく此室に御返りあるべし、イヤ何事をか樂みて今宵を過させ玉はずや」と云ふは今更扉一重を隔てたる彼方の庭は最愛の夫が貴族と死生の決闘若しも此場の人々よ様子をつつと知られれば必らず助太刀に赴く、あらん若し左もあらば多勢に無勢夫の命と亡きものを如何よかして此場を濁し一個と一個の決闘を首尾好く果させ終らんと心の裡の巧をば知る由もなき他の人として「左らば例の如く主の女史の舞の一ト手を所望せんは如何にぞ」と一個が云へば大勢か口を揃へて「然り、之の上超す思なし、イヤ立せ玉へ」とと勧めらる、を好きシホに女優とツツと立上り有名なる芝居中の或る一の所作事を擇み或歌ひ或は舞ふ折しも聞こゆる刃の響、聴き耳立る此場の人々、ツツ聞かしての大變と女優の聲を張り上げつ、誰ひに紛らし遮れ共アツと魂消る手負の聲「コハ何事」と立上る一座を止めて「何事にも候はず先づ所作事を御覽あれ」と妙技を盡して人々を引留めんと心の憂千万無量の苦は知る人もなき我身の上窓の外よて夫の死生、刃の響、傷手の聲、敵を打ちしう響れしかど氣遣ふ胸を押し隠し笑ひ興する所作事にて敵の從者を釣り留て夫の存意を遂けしめん、と二ツは係る一ツの心乍らにして戶外より在り乍らして所作事より在り舞ふ手踏む足亂れんとし乱れもならぬ一呼一吸復も聞こゆる刃の響、アツと叫び魂消る聲「コハ只事よ非きぞ」と在り合ふ人々身を起こす「その遣ては」と立ち塞かり心も亂れ氣を狂亂最早や手足の定まらぬ迄息を絶へ、く身に身を概よしの仍ほも人々を遮らんと推隔つる折しもわれ扉を開て入來る、て其の夫にて右の手には劔を掲げかねて決闘の式の如く上衣ヲツツキを脱ぎ去て白シヤツと重み血を帯び乍ら呼吸忙はしく駆け入るを「本意を果し玉ひしか」と叫びも敢へず取錠、女優を右手に抱きとめ乍ら「我妻本意を果せしぞ我も重傷を負ひたれども敵をハ見事

と



に響かしど」と云ふを聞くより此場の人々「扱ては事こそありたれ」と柄よ手を掛け一同立上る一方よて女優と「アラ嬉や」と云ふ聲與よ辱弱き女の身を以て今まで胸の苦痛をおさへ敵の従者を釣り留めんと笑ひよ紛らす所作事に其腸も寸断せしと見へ今や本意を達したる夫の顔を見るよりも其の心の弛みしむや遂に夫の腕に倚れる儘悶絶して命を落すよて幕終る

右の芝居は一と幕物乍ら如何にも能く仕組たるものと感心せり只た大切あるは右の女優の役目にて夫の死生を憂へつゝ、心中にて保ちかねる悲を懐き乍ら其の面には色をも見せず笑よ紛らし面白さを感じしめ敵の従者を引留めんと心を用ふる有様之實よ見物人をして手よ汗を握らしめたり其の所作事を爲す内よもアツと叫ぶ聲或は打合す劍の音の更るゝ其所作事の間よ聞ゆる杯へ實よ見物人をして危あき心地を感じしめたりセキスピア。シララー。ホルテール等の如き名家の作物の始く措て論せ近來の作物にては蓋し斯くの如く簡單よして斯の如く感じ深きものは先づ余等の見物せし内よは之をかりしあり有らゆる事柄を見聞する爲よ彼地に遊びしとあれば余等も芝居とあれば大抵見物せざりしはなき程ありしが其内にて目よ留りたるは此の芝居なりき

鳥類の事

歐羅巴よてナイティンゲールと云へる鳥あり歌人の句よも入り文人の筆よも載せられ最も文學社會に縁の近き風雅のものよて例せば世事を抛ち田舎よ退隱する決心を爲す時の詞をよとよは「溪水の潺湲たる響こそ世間第一の妙なる音曲よてナイティンゲールの囀る聲こそ世間第一の妙なる唱歌なれ、此の物憂さ世を棄て、故の溪水の音曲とナイティンゲールの唱歌とを樂しみあん」杯と云へること往々有り又少し都びある辞を用ひ善く感ふ者の聲を形容する時杯よも勳めすれば恰もナイティンゲールの聲の如し杯と話すなり左れば余等もナイティンゲールは如何ある鳥あて其聲は如何なる者あるや聽かまはしと心掛け居たりしか此鳥は寂寥たる場所よ來鳴く者よて何分都會近傍よは見へず唯た時として龍動杯の近郊の寂寥たる樹木の間にて於て鳴く事ある由なや而して其鳴く時刻を夕方より夜に掛け妙音を發する者よて晝を啼ぶることなまよと云ひ又聲のみ聞へて形をば容易に人に見せずと云ひ如何よもして聽きたく視たまよと心掛けられ共遂に目よも耳よも掛らざりしハ遺憾なりし右の鳥は日本の辞書杯には譯して杜鵑と爲す者あり或は黃鸝と爲す者あり故よ彼地よ遊びし邦人中にも各よ誤解して等閑よ唯だ日本の杜鵑或は黃鸝あるかの如く誤り思ふて過ぐる



者あり然れ共其實は杜鵑トビもあらず又た黃鸝ヒトリもあらず併し右の兩譯の誤るも其理無きよ  
あらず何となれば畫囀せずして夕方より夜に掛け囀する所は杜鵑トビに似たればなり又其形かたちの  
小なると聲の好きとを考ふれば黃鸝ヒトリも似たればなり左れば杜鵑トビと云ひ黃鸝ヒトリと云ふも強が  
ち咎とがむべきよあらず

彼の有名あるケンシントン博物館の別室べつしつは禽獸木石のみ集めたる一の廣大至極なる別館べつくわんあり

二三年前よりダリソンの大理石像を飾付けたるは乃ち此室あり因よに云ふ此石像は凡そ等  
身の長ながよて余等の遊あそびし少し前より撒菴さくわんの式を行ひし由なるが熟まら其像を見るに如何いかよも  
人間社會にんげんより一大眞理ほんりを發明はつめいし能ふ丈ほどの能力を有するが如く見受みうけけたり右は崇敬そんけいの心  
よや斯いかる感かんを興おこふる者なるべし英人の宗旨家杯さいは同氏の顔色は稍まや猿さるに似たり其子こも亦  
た同様どうがうあり人猿同祖じん猿どうその説せつを唱となふるも無理ならぬ事なり杯さいと平常惡口へいじょうあくぐちと言ふとあるが同氏  
の眞まことを摸うつしたりと云ふ右石像の容貌ようぼうを見るよ何なにも去程きょ積つに似たる譯わけもあらず日本人杯  
の中なかよ之これを据たへ置おかば實じつに逞たくましき顔色かおいろあり

此館このくわんは世界中の寒帶熱帶温帶諸地かんたいねつたいおんたいしよちに産する禽獸きんじゆの類るい一として有らざるはなきものあれば

余等はセメての彼のナイティンゲールの形ありとも此處このところよて見んものをと一日其の穿鑿せんさくお  
往むかきたるよ彼の館内の樓上ろうじやうにて愛あいらしき有名なる小鳥數十種せうちよくを恰あたも生いけるが如く飾付しやくけけ  
其好こので遊あそぶ樹木草石杯さいは其れく取添とくそへて備そなへ置く所あり此中このちゆうにてナイティンゲールの生いけ  
るが如く示ししあるを見るよ鳥の大さは恰あたも黃雀わうせつと同しくして其毛色けしきも亦また黃雀わうせつと同どうじ唯ただた黃  
雀わうせつよ比ひすれば少すくしく黒くろみを帯おびたるが如ごとく左ひだりれと嘴くちばしと云ひ全体の恰好かつこうと云ひ大體たいは毫ちも黃  
雀わうせつに異ことならざれば日本の翻譯者ほんやくしやが之これを黃雀わうせつと誤あやりしも又無理むりおらぬことあり而して此鳥  
の夕方より夜に掛け妙音めうおんを發はつするは稍まや杜宇とこに似たる者あれば杜宇とこと誤あやりしも亦無理むりあら  
ざる要いする此鳥は支那日本には其類しゆなき者と見みたり左れば後來西洋の文學の日本よ入來  
り文學書類ぶんがくしゆの世に行はる、よ隨したがひ日本人も度々書中しよちゆうにて此鳥このちゆうよ出逢でであふ事とあるべし然らば  
杜宇とこ或は黃雀わうせつと見るは然る可べからず矢張原名やじやうげんのナイティンゲールとして之これを視みこそ然るべし  
又其外またよ英國は勿論歐洲大陸の佛、白、地方ちゆうより往々田野むらたの間まに鳩とびの大おほきにて其形かたちは日本の  
尾長鳥おしながの如く羽色はふいろは全体ぜんたいよ黒くろくして腹背はらよ白しろの斑色まだらいろある者往々悲鳴ひなするを見たり右は珍めづら  
しき鳥ちゆうよ覺おぼへたりしが博物館禽獸部きんじゆぶの中なかよて考かんふれば乃ち鶇せうなるべし日本には同鳥このちゆうは餘あまり  
多おほからざる故ゆゑ斯いかく珍めづらしく覺おぼへたることあるべし支那の北地きたち杯さいよ隨分したが之これれ有りあり鶇せう



の字は支那書中よては往々に見る所なり又た英國杯の冬分の畫圖の田舎の景或は雪中の景を寫す者よは往々ロウビン(高麗鳥)を畫く者あり又英人も殊に此鳥を愛する者なるや見受けたり同鳥と元と野生あるべきが雪中杯よは別て人家を便り來り入み訓る、者の由よ云へり日本にては同鳥は渡り鳥の部類に屬して野鳥にあらざるが故よ余等よは珍しく覺たり先づ鳥類よて日本と異ありと思ふ者は前記するヶ條に過ぎを概して云へば一休も山嶽少く平原曠野多く大抵の地は開けさ盡くして園圃の如く成り居るが故よ我邦よ此すれば野鳥類も甚だ少き方に覺へたり故よ都會の公園杯よ野鳥の來りて嘲し遊ぶ杯は甚だ珍重する有様よて新聞紙上に於て鳥類保護の論者を甚だ多く見受けあり

回 航 紀 事

吉 田 嘉 六

余が倫敦滯遊の期限の豫ねて本年一杯か少あくと此夏秋の交までと定め居りしとあて今年の春の日耳曼、伊太利、埃太亞、瑞 士等大陸の國々を歴訪し再英京よりて緩く行李を理し而後米國よ渡航し二三ヶ月間を紐育、華盛頓の間よ費して成る可く充分よ各地の事情を觀察せん者をと考へ胸中夫々宿算を立て、三冬嚴寒の逝くを待ち居りしに此際本社よりの來狀を見れば改良後の結果、非常の盛大を致し諸般の事務大繁忙にて社

友は朝から晩まで目の舞ふほどよ劇はしければ海外の漫遊通信も本社よ取て甚だ大切の事業あれど目下の事情より云は、一日も早く歸朝して社務の一方を擔任する方向よりの急務なりとて幾々事情を説て頻に歸朝を促がし來れるのみならず引續き電音を發して直に歸朝せよとの命令さへ達されたれば今は猶豫す可きにあらせと残念ながらも斷然意を決して歸途よ就こと、いなれり思ひ設けぬ旅立なれば余が一身よ取りて云ふ可らざるの混雑を極たりしが幸よ在英朋友知己の何くれとあく親切に助け呉れたるをもて何事も最迅速に纏まり心置かく彼地を出立するを得たり至急を要する飛脚同然の旅行也へ別物々しく紀行あごを綴る程の材料もなければ亦た一つ二つの談柄あさよもあらねば左よ其概要を書き記るして讀者臥遊の一興よ供すること、なしぬ

余が乗込む可き紐育行の郵船は十二月十一日午後二時を以て英國リバプール港を開帆を可き手筈あれば大抵の乗客も前日倫敦を發して同港よ一泊せり余も成る可くは右の手續を履まんものをと必構へ居りしが十日の朝來知己の過訪するもの跡を絶たせ夜に入までハ平素懇意よ往來せる外國人等の集り至りて別を惜み宴を開き談笑の間よ夜を徹したる程なりしを以て遂に前日には出立すること能はせ當日の一番電車よて出立すること、なれや倫敦の



名物とていゝか上よ立ち籠めたる烟霧の間より朦々たる旭光の儘かに地平線を離れて斜めに樹梢に映せる曉方の景色を名残惜しげに見送りつゝ、龍送の友人諸氏は別れを告げて涼笛の響きと共に倫敦を背よして馳せ去りたり余と同室に坐せる英人二名あり昔共に同じ船にて米國へ赴く人あれば忽ち懇意にあり種々の物語りに笑ひ興じて時の移るを覺へざりしうち車は只ある停車場に着けり右の二人は物ほし、とて近處の酒店に這入れり余も其よ來よとて隣はれたれと辭して行かざりしが車は間も無く運轉し始めたり酒屋に行きたる二人の英人は車に置き去りよされしと見へ歸り來らる只彼等の手荷物と余一人のみ室内に在り氣の毒あることとしてけりと思ひながらも詮術なければ其ま、次の停車場まで來れり車が停まるや否右の英人二大失策くくと叫びながら室内に入り來り前刻車の動き出せる音を聞き飲みうけたる酒も食ひか、りたる肉も其ま、投出し狼狽たへ騒いで駈け付けたれど最早間よ合とせ止むを得ず役員の乗込み居る最後の車中へ物をも云はず身を跳らして飛び乗りたり役員めが何かグズく云つたれども終に強情を張り通して幸ふじて助かりたりとの物歸りよ又々一興を催はし旅馴れたる君達すら旅中の失策はあるものを土地不案内の我々日本人よ縮尻のあるも無理あらまとい一笑せり扱て此停車場よこは十分間、車を停めると云ふ

ことゆへ今度こそ大丈夫あり飲さ直しに出掛け玉へ己も朝餐をした、ひ可しと勸むれども諺よ所謂る噎々懲りて食を廢する道理よて彼等は痛く前敗に懲て動かま去らば己れ一人りゆるく飲食せんものをと停車場付きの料理屋よ赴きたりて食事了りて時計をながむれば既に八分を過去りたり丁度よき刻限なやと拂をすませて、もとの處に立歸り來ればコハ抑も如何何處行さけん車は見へる南無三大事を仕出かしたりと狂氣の如く馳せ先ぐれど尋ね當らずソコらに居合はず車掌等よ間ども充分に教て呉れず進退維谷の場合に迫り如何はせんど苦慮せる折柄一人の役員向ふより來懸りたれば之を逃がしては六變かりと急ぎ懐より二三志を拾ひ出し彼れの手よ握らすると同時よ其手を捕へてリバープール行の列車は何處に在る早く案内しろとて引立たれば地獄の沙汰も何とやら彼心よく承諾し欣々然として余を其處よ誘いたりヤソ嬉しやと思ふ間も無く車は既よ運轉を始たりソレ遣てはと足を空らに馳せ付けて漸く室内よ飛び入りたり英人等は余が同じ様ある轍を踏みしを見て手を打てうち笑へるも可笑しコハ全く此線より彼線へ車を移したるまでよて別段あはてる程のことにものらねど日本の鐵道よと、は違ひ幾十百の線路が縱横に入り亂れ列車の出入繰るが如き處に在りては一寸の出來事も不案内の旅客をまごつかしむるに足るものあるよ況して此車



は途方もあき方角も持ち去られたることあれば余が狼狽の一方ならざりしも亦た取て無理  
 あらじ惣べて歐米大陸の旅行中涼車の乗り下りには別して心を用ゆること肝要なり前人の  
 失策話は後者の鑑戒となりて便益を興ふること少うらねば余は些細の事柄も旅行中の  
 心得となる可きこと務めて附記するを事とす讀者此意を諒し玉へ兎角するうち涼車はリ  
 パアール港に着し乗客思ひくは散亂し余は直ちに馬車を備ふて埠頭へと赴きぬ  
 歴的瀾洋は世人に熟知せる如く風浪殊に險惡にして盛夏、風死し水眠るの時と雖も猶は怒  
 濤山を崩すの勢あるを况してや時止さば臘月風雪の候の際し膚を劈くの寒風は空撲つ水を  
 激して船体の揺揺一方から秋の木の葉の風も舞ふ心地して數百名の旅客概ね船を感せ  
 ざる無し余は印度洋の航海以來中々剛くなりたる積りにて最初は何程の事かあらんと威  
 張り反りて甲板を散歩せしが遂に耐へ切れずして房中へ逃げ込みたるま、五日計りの間は  
 起き出づる能はず空をく呻吟の中より日を暮したり五日目の夕方より我慢して床を離れ食卓  
 は就きたりしが船は猶は顛頓して止まず食堂饗々として卓に向ふ者甚だ少し以て其風浪の  
 尋常ならざりしを推知す可し

一日余は朝餐を了へて喫煙室に入り倫敦婦人と題せる小説を讀み居りしが傍ら幾多の航

客此處に三人、彼所より五人と類を以て集りつ、或は骨牌を闘はして雄辯聲中頻りは輪贏を  
 争ふや或は將棋を弄して運籌經營頭を疾まして交々勝敗を競ふや酒を命ぜる者、茶を  
 飲む者、雑談する者、喫煙する者、千差万別思ひくは一方に割據して消遣の道を求む偶々  
 一人あり突然余に向ふて君は日本の貴公子ある歟と問へり余驚き怪んで其故を問へば即ち  
 云ふ下等室より二人の日本人あり思ふ君の従者あらん富貴の人非らざるよりの遠く従者  
 を引連れて海外萬里の遊を試むる能はざる可しと余と其言の意外突然なるは驚き日本人は  
 已れ一人の外他は乗組あきものをと空嘯いて取り合はざりし餘りシツコク尋ねるも  
 余は單身孤客の一措大なり従者も無ければ朋友も無し満船、余を外として復た一人の日本  
 人なき非らざるや何と間違へて左様なことを云はる、よや其意つやく解し難しと一本参  
 りたるも彼れ益々ヤツキとなり否とよ従者と見たるは余の誤りもせよ日本人の君の外尙  
 は二名の客あるを憐れあり同國人の乗組居るをも知らずして反て余を間違ふと、云はる、  
 こそ迂遠千萬なれ若し偽りと思は、請ふ試みよ下等室より見ると可し必ら吾か言の誤り  
 あきを知らんと威丈け高きありて論する儘はらより他の洋人等も口を添へてシハ相違を  
 我れも見たり我れも知れずと異口同音に唱ふるも、今は受太刃となりて聊か閉口の色あり



充分には信せざれども心中若しやと疑起り試みは實驗するに如かずと思ひ直ちに階を下りて下等室より見れば折節孰れも甲板に出で、遊び戯れ居たりよく／＼眼を注いで之を見れば如何も日本人の骨格容貌に相違なき者二人を見出せり扱は左様にてありしか今まで知らで過ぎたるこそ不覺千萬あれ何國の何人かは知らぬと海外万里の航海中も偶然同郷人に出逢ふことの喜はしきよと走り寄りて先づ一禮を施し君を離殿である乎と日本語にて懇懇に問へども彼れ茫然として一言を發せず此奴失敬な男なりマカカ啞までもあるまじきにと少し腹立ちしまゝ、一層聲を高ふして君は日本人ならせや御姓名を承はすたと問ひ掛けられたれば彼れ尙ほ呆氣にとられたる面色にて漸くに語を發し英語にて私の貴客の言語を解すること能はせと答へたり扱は日本人にては無かりしか大失策を爲したりと急よ言葉を改め英語にて君は何國の人かりやと問ひしよ西班牙人あて候と答へたり此よ於て余も大よ其無禮を悔い事の顛末を話して只管ら粗忽を詫びたれば彼れ亦た言を卑ふして禮を返し貴客のみならず是まで度々日本人と見違へられて迷惑せしことあり決して御心配には及はずと挨拶し互に笑ふて其場を立去りたり失望と不平との二感は此時余は腦髓を刺撃して止まらざりては前きの洋人をへこまして山腹を慰んものと取て反して己前の洋人等よ向ひ君等の言は

皆な盛なり彼れは日本人にこそあらせ西班牙人なり君等のお蔭で大耻を擡きたりとして散々愚痴を排べ立てたれば現在日本人のお前さへ大耻を擡く位に似て居るものを我々が見違へるの無理ならずソナ答め立てする道理やあると果ては大笑にて其坐の興を添へたり全体西班牙人葡萄牙人等の中よ其容貌骨格日本人丸る出しと云ふが多く時々見違へて失策すること少なからず往來よて人の後ろ姿を見、太早計よ吾が良友と見違へ突然言を掛て大赤面することあり能く似た話よて随分間の悪るきものなり

紐育よ着るる二日計り前の朝なりと覺ゆ兼ねて船中よて懇話になりし一英人が余よ向ふて云むらく紐育着港の日も既お間近く迫り一周日餘の久しき此船を家と爲して互に睦み合ひたる我々上等航客百五十餘人の家族の今ま一日二日よて散り／＼に訣別し再會の期も測り難き譯あれバ今夕は一同懇親の宴を設けて互に名残を惜み度く思ふなり船中の貴女紳士は皆な同意にて其議既でに定まれり足下も不同意なくば臨席されたし尤も徒らに酒を飲み肉を食ふのその飲食會にては餘りよ殺風景のへ餘興として各々得意の伎藝を現はすべき約束にて或はピアノを彈する貴嬢あり唱歌を誦ふ紳士あり或は滑稽の落し話を爲す人、演説を試むる者思ひ／＼に役割を定めて歡樂を罄す趣向なり足下は我々に取て殊よ東海萬里の



珍客なれば是非席上の演説を願ひたき了簡ありコハ拙者一己の私願も非らき實に乘客一同の公望なれば何分にも受引かれたまを事わけての示談めども余は甚だ閉口を極めたれば御覽の如く日常の談話すら片言交りに辛ふじて其意を通ざる位の始末なれば中々以て演説など、は思おもよらき其義は平らに御免を蒙りたりし席末も列せんとは素とより拙者の希ふ所なりと挨拶して立別れたりしが其日も既でに暮れ行きて午後七時と云へる豫定の時刻となりければ續々食堂へ集り來りて思ひくよ坐を占めたり中央には一壇高く會頭の席を設け航客中よては最も貴顯の地を占れたる英國海軍中將某氏一同の推薦によりて會頭席に就き手短かに本會開設の主眼を述べて各々充分な快樂を盡されんことを希望する旨を語り且つ豫ねて約束の如く銘々得意の藝能を試みられたし其順序姓名の如きは別紙目録を製し置きたれば就して一覽の勞を取られんことを希望すと説き了りて一小片紙は何か印刷せしものを配布するを見れば是れなん 豫 茲今夕の技藝者演説人等の順序を定め船中備置の印刷器械にて刷行せしものにて第一某女彈琴第二某氏謠歌第三何某の演説と一々其人の姓名と其試むべき事項の種類とを掲げ示きたる一覽表あり余は何心なく其第一席より讀んで第八に至れば何ぞ思はん第八席日本紳士吉田君の短簡演説 (No. 8 Short address. Mr. K. Yo.

Mr. A. Japanese Gentleman) の數字を見出さんと扱ては今朝の英人めが余が謝絶するを肯かまして目録中に我が姓名を加へたるならん、さりとては理不盡千万の仕方なりと心中不満に堪へざれども今更ら彼此争ふ可きもあらず其期も及ばば詮術あらんと先づ黙して控へ居しが第一席より段々と順を逐ひ來りて既し第七席の演説も済みたれば會頭は起て余の姓名を呼び一坐に向て吹聴せり此時余が心中は閉口は譬ふるに物なけれど事既に此に至て最早やグズグズ 踟躕すべき場合は非らねば思ひ切て其席を起ら先づ一禮を施したるのち

會頭并は貴女、紳士諸君、余が萬里飄零の孤客を以て圖らば諸君の知遇を受け今夕此の盛舉に陪して諸君の名論卓説を聞くことを得るは誠に意外の幸榮として余の謹んで諸君へ鳴謝せんと欲する所あり今朝某氏は余も告ぐるよ今夕此盛筵も列なる可き旨を以てし且つ勸むるよ演説の一事を以てしたり然れども余の英語も熟せずして日常寒喧の挨拶尙ほ且つ容易ならざるは諸君の現在親しく見聞して熟知さる、所なれば余は固辭して肯せざりしに今此場に臨むよ及んで何ぞ思はん目録表中余の姓名を見るあらんとは余の當惑實に譬ふるよ物なき也然れども事既に此に至る徒らよ黙して禮を諸君へ失す可きに非らず是



れ我が自ら圖らず敢て一言を發する所以なり我にして若し英、佛、何れかの語學を長せん  
う我が此好機を幸とし我が日本の近狀に就て諸君の聽を煩はさんと欲すると甚だ多し唯  
だ憾むらくは不肖として外國の語言を嫻はず胸中の萬分一を漏らすと能はざるを故に我  
は止た下の數語を以て此席を下る可し曰く謹んで諸君の健康を祝し彼我兩國の交際益々  
親密にして永く各國の泰平を保持せんことを祈ると

と述べ了りて逃ぐるが如く其席を復したるが満場の男女は我が向ふ見すの大胆なるを驚き  
しか將た其言語の整はざりしが可笑かりしか兎も角拍手喝采して暫しの鳴りも止まざりし  
が余は益々閉口して慚汗、背も滴りたり暫て倫敦滯留中誘はれて或る英人の青年同盟會の  
望み演説を強請されて同一の迷惑に遭遇したることありしが英語の達者な饒舌るる、人は  
返て愉快得意も思ふ可けれ我の如き片言の數語が曠れの場處に法法華經を歌へさ  
れてと實に當惑せざるを得ず併し是れ亦た旅中の一興か

扱て豫定の如く演説のピアノも順次滞はりなく終りを告げられたれば會頭へ起て鄭重に謝辭を  
述べ且つ一同は向ひ今夕の諸入費を充てんが爲め各々應分の義金を醵出ありたり旨を告げ  
直ち給使人をして一個の丸るき途程を捧げ片端より出金を促がし歩行かしたる斯くも

る可しとのかねてより覺悟し居りたることなれば懐中より紙入を取出し是れ丈けあはば澤  
山ありと英貨三志即ち今日の相場にして凡我九十錢計りを用意し給使の來るを待たば澤  
と給使先生は段々と回はりくして遂に余の前を來りたれば卒に喜捨せんと手を擧げながら  
圖らせ起て盆中を瞥見すれば何ぞ思はん一磅(即ち二十志)半磅等の英金貨は二弗五圓等の  
米國紙幣と錯落相交り一志銀貨の如きは其影をだに見ること能はざらんとは余は餘りの  
奢り様あり畢竟洋人の瘦我慢にて負けぬ氣の贅澤より斯る法外の金錢を投じたるものあら  
ん左りとては愚の至りなりと心中不満もあり惜くをわれどながら日本國を代表せんと  
も云ふ可き余一人が鄙吝を專して輕蔑を受くるも残念千萬なればと終に思ひ切りて半磅の  
金貨を投與せりあにて聞けば此夜の集金高凡そ五十五六磅(我二百七十圓餘)より上りま  
云へり此金貨は皆當夜の入費に充てたるものよて何人も横着をせし譯にあらざるは云ふ  
までも無きことながら思ひも寄らぬ課税あれば實生余の如きは一時頗るまごつきたりナ  
トせし旅中一夕の談話會も斯く奢侈を極むる習慣あれば澤かと上流社會の交際仲間には  
遣入れぬ譯なり是れ併しながら積んで能く散じ勞して能く樂む歐人固有の氣象にて東洋風  
の驕奢遊逸との同日の話に非ず右了りて孰れも卓も就き交る杯をかはして更闌くるまで笑



いさゝめき興じたり

二十日の曉は米陸の山影、漸やく眸底に入り來り、烟霧縹緲の間、微かき唇顏の笑めるが如きを見認めれば、船中一同喜び合ふて知るも知らぬも言葉懸けて互は無事着を祝し合ひ、往時閣龍が始めて米の陸影を認めたるも斯くやと思へる心地して愉快の情、面を溢れて見へたり、僅か十日間の航海なれども十一日出帆以來到着の今日に至るまで一日として風恬浪靜の天氣はなく始終荒れ詰先揺り續きの中、苦められたることなれば、斯く一同の喜び一方ならざりしも理はりなり、船漸く進んで陸影漸く深ぶる、隨ひ宏大なる樓閣の尖頂を眺むれば、眼底に印し來る、及び首を擧げて前面を眺むれば、屹然たる巨像の高く雲を凌いで聳立せるあり、是れ即ち近日佛國人民より米國へ寄贈せし有名なる自由の銅像にして、ペドロス島の岬頭に建てたるものなり、其高さ無慮十五丈一尺あり、像の全体は女神の形に模し、右手は巨大なる電氣燈器を捧げ、たゞ火を點すれば光明萬里を輝らすと云ふ所謂る世界を照らす自由の光輝として、米人の最も得難く、鳴らす所なり、近時米國人民は何事もて、世界第一と云へる肩書を得んことを熱望し、種々工夫を凝らして、宏大異常の事を企て、往々天下の耳目を聳動せり、此大像も即ち世界第一の一つとして、假令米人自ら建設せしもの、非らざるも

既に贈られて其有る歸する以上は、則ち米國偉觀中の一あること勿論なり、此像は極近時の設立に係り、矢野森田兩兄の此地に立寄りたる頃は、また工事最中にて、兩兄も目撃せざりしことあれば、余は紐育滞在中是非ペドロス島を渡り親しく就いて、其の模様を一見せば、やど心懸け居たりしが、生憎く連日風雪の爲めに阻せられ、遂に造り觀ることを得ざりしは、甚だ遺憾と思ふ所なり、併し漁船は間近く其前面咫尺の間を通過するが、細かに像身を視察することを得たり、此像の事に就ては、曩々本紙の雜報中に詳記せしことありと覺ゆれば、繁を厭ふて、今更復た追記の勞を取らず、兎角するうち、船は既に紐育港内に入り、其會社持ちの停繫場止りたれば、乗客先を争ふて船を下れり、此際の雜沓喧嘩は實に非常にて、余の如き一人旅には、随分煩勞を與へたり、余は荷物の検査も事なく、済み直ちに馬車を僦ふて、領事館、正金銀行支店等、及び暫時談話の後、去りてウニスト、ミンスマー旅館に投ず、時正さ午後五時、斜陽漸く殘光を収めて、暮色蒼然たるの頃なりき。

前より記せし通り、余が今回の歸途、一日片時も迅速を要する場合も、紐育には僅か一夜の滞留、直ちに桑港へ向け出發の心算なりしが、歴的瀾洋の航海にて、非常な苦しめられたる爲め、や身心何となく快からず加ふる、俄かに非常の寒氣に觸れたるより、忽ち邪熱を冒さ



れ心氣頗る懊惱を感じたれば此分よては迎も即時に發往すること能はじ如何のせんと思案の折柄在紐育の人々は懇ろよ余よ勸むるよ諸處游觀の事を以てし先般矢野君の一行も折角此地を過ぎりなから滞留周に満すして匆匆に去られたるは甚だ遺憾よ思ふ所なれの願くハ二三週間を此地よ費して商工業上の視察を兼ね彼地此處、見物せられなば當たよ貴社の爲めに便益少からざるのみならず我も亦た大に満足せる所なり紐育も觀察游覽するに足るもの多し歐洲を見たれば米國のどふでもよしと云はぬ計りよ冷視さる、は頗る不平よ存する所なりと諷刺觀告取り交せて頻りに滞遊を勸むる言の最と親切にして且つ理りに聞ゆれば彼此の事情を慮かり終に心を決して此地よ越年と覺悟を定め其趣を本社へ通して暫く御興を据ゆること、はなりぬ因て紐育滞留中よ目撃耳聞せし事柄のうち記するよ足る可きもの數項を左よ掲ぐ讀者若し西洋風俗記中の一部として一讀せば則ち可あり

下宿屋

既よ十日以上の滞遊と決心したる以上はペン／＼とホテルに逗留して毎日代枚四ドル、五那の旅籠料を拂ふは不經濟、不得策の甚しき譯なれば早速相當の下宿屋よ投ざるこそ肝要あれど人にも願み自身も奔走して探し歩行されど何分二週間や三週間の短き下宿は面

目あるゆへにや言を左右よ托して承諾せよ甚だ當惑を極めたりしが幸に一軒あり是れやで絶へせ日本人が止宿して主婦は能く日本人の性質習慣をも承知し居る由あればコハ屈竟なりと早速に面談を試みれば快く承諾して何時よても差支あしとの返答ゆゑ即日（到着の三日目）ホテルを引上げ直よ此家へ轉宿せり爾來此下宿の体裁と各所に散居せる友人の止宿せる下宿屋の摸樣とを對照し且つ永く此地に滞留せる人々に就いて聞合せたる廉々よ據りて粗ぼ當府下宿屋の狀況を窺知するを得たり大体の上より云へば巴里倫敦と大差あきよ似たれど細かよ穿てて随分相違の廉なきにもあらせ尤も下宿も様々ありて廉なるは一周間四五ドルより不廉なるは三四十弗にも及を以て其取扱の摸樣、家内の体裁等よ至ても夫れ相應の區別段階ありて一概よ論を可らざるは勿論のことあが概して云ば、諸物貨の不廉なると共よ下宿料も巴里、倫敦等よりは遙かよ不廉あり朝夕の食物も直段よよりて相違はあれど矢張り概して粗惡あるよ似たり且つ紐育に到着以來毎よ余をして困却を感せしめたるものはホテルにても下宿屋にても靴を磨き呉れぬ一事あり巴里、倫敦などよては如何ある安泊り安下宿よても客人の靴は毎朝必らず奇麗よ磨くを以て例とせり余は最初矢張り并積りて寢よ就く前、靴を戶外よ直し置さしこと屢々あるも朝起て之を見れば依然たる



背の汚れ靴のへ詮方なく出で、街頭の靴磨きも掃除せしめざるを得ず毎朝チヤンと磨いて置いて呉れると一々自身が街頭に出で、靴磨きも磨かせるとは其便不便の差一方ならせ随分五月細き次第あれば大抵我慢して汚れたまゝに穿ち勝ちよなるが人情ゆる往來の男女が爪先を見れば何れも汚靴を穿ちて行き通へり之を巴里、倫敦等の男女が鳥の羽を欺き漆の色に優れる靴を着けて往來するに比すれば大なる相違なりと云ふべし

佛、曼、英等歐洲の國よりて一般人民常々酒を嗜み朝饗を除くの外に大抵桌上にビール、クラレット、セリー等諸酒の上らざるは無し殊に麥酒の如きは價廉にして量多く何人の口にも容易く上り得可きを以て人々毎日に水の代りとして之を用ゆる程あり故に酒と甚だ自由にて全くの下戸連はイザ知らせ少しく酒を嗜める者に取りて誠にお愉快便利を極むる譯なり余は元來、百川を吸ふの豪にと非らざるも亦た三盞は耐へざるの量も非らせ何れと云は、先づ上戸籍は列する方もへ斯く自在に斯く廉價に瓶を傾け得る、は何よりの都合にて下宿も居てもホテルも泊りても友人を訪ふても散歩をしても渴を覺ゆれば即ち此水で喉を濡はすを常とせり然るに紐育も若以來、ホテル及び割烹店等の有様を見れば男女も以らせ杯を手とする者甚だ稀れにして皆茶、珈琲を用ひ居れりホテル、割烹店すら既ち

斯の如くあれば況して一般下宿屋の如きと尙ほ更り酒の縁薄く水と茶、と珈琲にて持ち切りの有様あれば余之甚だ寂寥を感じたり左りとて米人は限り酒を嗜まぬと云ふより非らず年々米國にて製造する酒類及び歐洲大陸各地より輸入する數量の統計を見れば實に驚く可き高上りされるのみならず各町到る所、居酒屋を見るに程なるは何故斯く一方には酒嫌ひの風習あるもや頗る解し難き理窟のやうあれど少しく熟思すれば直ち其原因を發見す可し元來歐米人と一体に表面の体裁を飾り上部の行儀を嚴重にすること東洋人の比に非らず屋漏に随分愧つ可き醜態あるも外部には燦然たる錦玉の面を覆ふて品行端正ある士君子の品格を失はぬことと注意するが中より取り分け米人と此風、盛んとして体裁を飾ること一層甚しければ成る可き丈け人前を取繕ふ傾あり現に余が滞在中或る雑誌に米國の婦人中喫煙を好む者多く堂々たる貴婦淑女として密かき一室に閉ぢ籠りスパーク煙を吹かしシガレットを吸ふもの甚だ少からざる旨を記載するを見たり飲酒も之と同様にて米國にて從來禁酒、節酒等の論を唱ふるもの多く酒を嗜む者も常々社會の擯斥を蒙り聖典の教を戻る者として蔑如さる、風儀あるゆへ婦女子は云ふまでもなく男子たりとも公然、杯を傾け酒樓に入る者少く渴を忍んで殊勝氣を人前を取繕ふが故に斯く歐洲に比すれば一般



酒の勢力薄くして茶、水の跋扈を極むる所以あり然れども一たび其裏面を窺ひ去れど戸  
 欄の片隅は始終、酒を絶えずブランデーはウイスキーと並び立ち葡萄酒と利休酒と隣り  
 坐しビアの口を揃へて門番するればポルト、ワインの頭を排らべて行列するあり一室  
 人無く畫靜かなる時、當りては家族交も杯を引ひて咽を鳴らす素とより男女の論あり也是  
 れ元と一般の風俗にして特下宿屋に限りし譯よとわらざれど余がいつも不平を感じたる  
 は下宿屋の食事時、在りたるをもて序でながらは此條下附記せり是れ亦た米國風俗の歐  
 洲諸國は異なるもの、一あり

余が止宿し下宿屋には日本人三人獨逸人一人米人一人女學校の女教師一人と主婦及び娘と  
 を合せ凡そ七八人の男女相混じて食卓に就く事あり主婦の六十有餘の老婆とて随分小六か  
 しき婆様ある上同宿の洋人の何れも上等社會の人物あらねば其舉止言語も素より士君子、  
 貴女たるの品格ある者に非らず余等と對する舉動の折節不敬に流る、ことあるより余の勿  
 論他の人々も時々不快を感じて互に其無禮を憤り合ひ居る折柄忽ち一珍事出来せり或る日  
 の朝いつもの如く食事を報せる號鐘響きしもへ余は匆皇階を下り將さに食堂に入らんと欲  
 する際、丁度新聞紙の配達會ふたれば其才、手は携へて食堂に入れり食事の間たゞ

一坐の男女絶へず言葉を交ひして雜談嬉笑するに彼地一般の風俗とて之れを以て交際上世  
 辭愛嬌の一つと爲せることゆへ彼等の色々を話端を啓いて彼れ一句此一句面白ろそうと談  
 笑し居れど余は少しも面白味を感じせ能くシメラヌ事を繰返して話の種とするもの哉と心  
 しく用のあるま、お先へ失禮と會釋して自分の部屋へ入り來りしが間もなく他の日本人も  
 上り來りて余が室に集りて云ふやふ今君が食堂を去りたる後、洋人等頻り君が食事中  
 に新聞を讀みしは不敬の舉動なりとて非難し居たり些細の事まで隊を容れて彼れ此れと  
 評論するの彼等の常僻あれば御參者まで申上置くとの心注け故サレバなり余も其失禮を  
 知らざるには非らず然れども彼等が平生我々に對する言語動作は果して禮儀を失し居らざ  
 る乎彼等の舉動は此すれば新聞位の何でもあし己れ先づ修りて而後人を責むることを可けれ  
 己れと始終野郎賤陋の言語舉動を以て人々對し乍ら嗚呼々ましく他人の小事を咎め立てず  
 るこそ心得ぬ畢竟、日本人と侮りての傲言あり其義あらば此方にも心得あり御心算の段は  
 千万辱しと答へ置き其夜晚餐の卓に向ひし時余は突然席を起ち威儀を正して恭しく滿坐  
 に向ひ拙者此度初めて米國へ参りし者あり英佛諸國は春來暫く滯遊して粗は其地の風



俗習慣を承知致したれど當國の事情は甚だ暗し定めて食事中は諸君に向て固々失禮の言語舉動ある可し然れども是れ元と有心故造の惡意より出づるに非らず全く事情を知らざるも坐するの罪なれば其邊は枉げて海容ありたく且つ若し拙者の言語舉動よして不敬と遊る廉あらば事、大小となく公け訓戒忠告されんことを望む必らず謹んで其教に従ふ可ま但だ後へは謹し密か講るが如きに至ては當だ拙者の取らざるのみならず亦た堂々たる紳士貴女の品格も關する譯と存するなりと述べ了て席を就きたれば一同呆氣に取られたる面色もて座中甚だしらけて見へたりしが此より後は流石に氣耻しくや思ひけん彼等の待遇全く一變し交も機嫌を取りて俄か敬禮の意を表するに至りしも可笑し何分黒髮黃口の東洋人と見れば直ち未開の人民なりと賤視し萬事に輕侮の痕を顯はすの海外を放せし者の等しく熟知する所にして此方に温順にすればする程、惡態を生ずるは彼地中等以下人民の免かれ難き所あれば旅中及び下宿屋をよめては温順中は威嚴を保ち折節と無遠慮に攻撃を試みるも宜しと存す

高架鐵道

米國は近時草創の新興國として百事、歐洲諸國に如く秩序正しく整頓せざれども廣茫たる

る天然の沃土と燦爛たる自由の薰風とは忽ち其國の富強を促かし建國僅かに百有餘年の幼齡よして既に世界を睥睨し眼中殆んど人なき勢なれば百般の事業も常に壯大新奇を競ひ諸種の發明工夫日よ月に隆起すると天下の共に驚嘆して措かざる所なり左れば歐洲諸國よ於て未だ曾て聞見し得ざる所のものよして米國特り之れあるの事物少からず今更此に記述せんと欲する高架鐵道の如きも亦た其一よ居るものなり當たは歐洲よ其類あさのみあらん米國よても紐育府を除くの外未だ其設立を見ずと云へり此高架鐵道と倫敦の地下鐵道とを併び稱して世界の一大奇工事とも云ふべき歟彼れと地底を潜るの鼯鼠の如く此れと天上を飛ぶの鵬も似たり其趣の異なりと雖も文明の奇工たるよ至て則ち一也思ふよ今後文化益々進み厚生利用の道愈よ開くるよ至らば草澤山林、用ひ盡して車を行るの餘地なく終よ到る所、煤炭、空中は燃へ車轍、地底よ轟くよ至るや必せり然らば則ち今日の奇とし妙とする所るも幾ばくならせして不奇不妙の觀を爲すよ至らん嗚呼文明の流潮も亦た盛ると云ふ可し今更余と讀者の爲たは此鐵道の模樣一斑を敘述す可し鐵道流行の今日よは適當の話柄あらん

凡そ新たに一事業を起さんとするよ方りて其事の目新らしさと異常あるとに依り往々世



俗の非難を被り種々の困難障礙は出逢ふこと古今一轍の常態あるが此高架鐵道の如きも其草創の始は當りては攻撃百出、排斥の聲四も起りて容易は實施さる可くも見へざりしが首唱者は毫も屈撓の色なく百方經營して終は土工は着手せしが爾來實際の運轉を試むるに及んで帝は一人の不字を唱ふる者なきのみならず皆な翕然として賛成の意を表し前きの排斥の聲を悉く變じて稱賛の音と化するに至れり是を以て創設以來僅々の年齒を経るに過ぎざりと雖も其之が爲めは紐育府民の幸福利便を進め紐育府内の繁華隆盛を加へたること甚だ著大なるものあり實利の著大なる斯くの如きあるに止らず其空中は横架せる彩虹と天上と飛行する大鵬とを實は紐育府の壯觀を加ふるものにして流石は文明國の大都たるは負かざる心地せらる扱て此の高架鐵道と目今四線路は分派して普く全府は貫通し停車場と短きと二三丁長さも十丁内外の處は排置しあるを以て甚だ乗り下りは便あり停車場と道の兩側は設けありて一と上り車一と下り車の停車場とす構造と頗る簡易質素を旨とし絶へて華美は流れせと雖も待合室喫煙室等凡て必要の事物は欠く所なきを以て決して不便を感せず乗客の乗り下り亦た甚だ簡易靜肅にして毫も喧囂雜沓の憂なし乗客も先づ切手賣捌所に於て切手を買ひ之を傍らに備へある硝子張りの小さな箱の中へ投し去るなり此箱は

二人の番人附添ひ居て乗客の切手を投入するを監視し居れり乗車賃と遠近の別なく通じて一人五錢を定則とす故は切手の文面、恰好色合皆を一様にして區別あるなく乗客と一たび此切手を買て箱中へ投じ去れば何れの停車場も下りるも勝手次第なり鐵道馬車、乗合馬車の如きも其車賃と遠近を論せざ一人五錢の定めあれば馬車より之瀟車を撰ぶ人多く其遠方へ往來する人は云ふまでもなくチヨト近處へ用足しは出るも此瀟車は乗りて往來するも乗客と常は込み合ひ押し合ひ始終車内は立ち詰めよさる、事珍らしからず雨降りなどには随分困却すること多し列車の駛行せる鐵路の高さは今や儘かゝ覺へ居らざれども大抵通常家屋の二階三階の間を平行する位の所は在り思ふは少なくとも六七間は有る可く思はる鐵路の下は馬車も走り荷車も挽き人も歩行居る尋常の往來あり鐵路と近年の創設に係り家屋稠密の間を縦横に縫ふて四方は通するものなるが故は迂回屈曲の場處甚だ多く蜿蜒として長蛇の谿谷を行くに似たり一屈一曲頗る急にして一見すれば實は危険なるが如くあれども此鐵路の構造は至極堅固にして車軌と車軌との間に横架せし鐵棒の上は少し突出したる堅材を以て車道を狭み居れば萬一車軸の破損することあるも列車と此堅材は支持せられ決して顛墜の危険あるを其他車の停車場は停まる工合と云ひ車掌の乗客に對する監視と



云ひ共に都合よく整ひ居て一點の閑然すべきなし要するは人手を省き時間を節して金儲け  
は勉強する米人の性質は此鐵道の仕組の上よも現れて頗母しくもあり羨しくもありと申  
すの外なし

新聞社の景況

新聞紙と文明の利器として社會改進の指南車たり政治法律、之れも依りて改良し學問究理  
之れを以て勝發す其他貿易殖産は道徳風俗に皆新聞紙の力を藉りて鼓舞獎勵せざる可  
し是れ余が新聞記者たるの故を以て漫手前味噌の自畫自賛論を唱ふる譯は非らず實は  
世界の公論として復た一人の之が異議を狭む者あるを聞かず左れば凡そ一國文明進歩の程  
度如何を知らんと欲せし須らく先づ其國發行の新聞紙數と其の發賣高とを檢すべしと云へ  
る金言と古來歐米學者の問ふ行はれて其紙數及び賣れ高と恰かも文明の進歩を測量するの  
度衡ととあれり從來日本より海外に放せし人々の中よと斷分心を彼國新聞紙の狀勢は留り  
て細かに觀察を下したる者も多かるべきが矢野森田兩兄及び余の如きは所謂商賈術の  
當局者として其身現に新聞の業務は從事する者あれば其注意觀察の綿密なること元より  
他の無縁局外の人が他事を觀察するの傍ら勾々一斑を觀察せしものこと口を同ふして附る

可き非らざる或は屢々彼地新聞記者は面會し或は時々編輯印刷の模様を自擊する等我々の  
事業に取りて必要の實地調査之可なりは行届き居る積り也然れども今更巨細は實際見聞の  
少條を列舉して一々之を説明せんことと事煩る煩冗は失するの恐れあるを以て今更其詳に  
及ばず此よ唯だ彼國一般新聞社會の狀勢は就いて其有様の概略を記するお止めんと欲す  
るのみ

今更若し歐米諸國の新聞紙が如何ある權勢威力を有し如何は社會は普及せる手を明示せば  
冷談ある日本の讀者は宿たよ吾言を信せざるのみならず徒らよ一片皇張誇大の言として顧  
みざるよ至らん新聞遞送の爲めは毎朝各地は向ふて特は別仕立の繪車を差立て數輛の列車  
悉く各種新聞紙を以て充たすと云はは世人の必らず驚き異んでマサカに左程まではと疑ふ  
おらんが是れ偽り飾りなき正直の話なり又た市内各賣捌所へ新聞配布の爲め各社より特別  
は仕立たる馬車の絡繹として馳せ違ふなどは思ひも寄らぬとなるべし、日夜五六分置き  
よ東西南北は飛行する各流車中よは上中下等の差別なく老人も婦人も貴きも賤きも殆んど  
一人の新聞紙を手よせざるは無く言ひ合せたやふる黙讀するも亦あり日本よて偶々讀書好  
きの人お寸陰を惜んで流車人力車等の中よて新聞若くは書籍を繰くを見て讀書の時間位は



家に在りて充分あるべきに在りて生意氣な男なり驚き入た外飾家なりと悪口しあがらじれど徒た忙然として無聊に苦みつ、不行儀も欠伸の中に可憐千金の光陰を空過するを得意顔なる社會は生意氣する人々を見せしめれば必らず嘆息仰天して歐米人民は悉く生意氣千万の外飾家ありと思ふべし時懸れ黄金の確言を守りて四六時中營々として職務を勉強し儘かす寸陰を偷んで知識開見を廣くし一身一家の富を培養まで國家富強の果を結ばんと心懸る人民が果して生意氣千万ならば余も隨て日本人民の悉く相率ひて速かに生意氣の仲間よ加はらんことを希望して止まざるものあり

新聞紙の勢力既此の如く強大新聞紙の賣れ高故れの如く夥多なる割合は記者の權勢亦た非常にして古來英國は男子生れて大宰相とあらずんば宜しくカインヌ新聞記者と爲るべしと云へる諺のあるを見ては其勢力の強盛ある程を推知すべし然れども其強盛も徒ら強盛あるよはわらぬ記者の人品學識と云ひ議論の精確公明と云ひ共に強盛なるの實ありて而もて強盛なるあり其筆鋒の銳利あるは百萬の甲兵ある過ぐべく其議論の公明なるは日月と光を争ふに足るべし但た時又黨派心を挿んで言偏辭に陥るの弊あるを憾みと爲す耳試とよ著名の新聞の主筆記者は就て親しく其面容を接し其議論を聴けば實に堂々たる一代の政治

家として一國の大宰相と爲すとも毫も耻かしうらざる人物あり米國大統領選舉の際往々其候補者の新聞記者中より現はれ出で、鹿を中原に争ふに至るも亦た決して偶然に非らざるなり

余は紐育滞留中是非同地の重立ちたる新聞社を訪問し實際事業の有様をも一見し且つは其主任記者と面會して談論を試みたしと者へ居りしが何分突然は訪問するも如何ありと猶豫を居たるに幸ひ起立工商會社紐育支店詰の支配人執行弘道氏は久しく同地に在りて學者社會の交際を廣く各新聞記者の大抵懇意あれば余が爲めに紹介の勞を取る可しとのことゆへ早速同氏に紹介を依頼し同道までトリビニオン、ハランド、メーブルを云へる二三の著名なる新聞社に抵り其主筆記者と面會して種々の談話を爲し且つ編輯局の様子は更もあり印刷の様子をも一通り實見し心中は發明せし利益も少あからざりし執行氏の紹介は實に余をして右記者と面晤の便を得せしめたるのよ止らぬ同氏が精熟練磨せる通譯は余が未熟なる舌頭を補ふて爽快明白は暗談するを得せしめたる誠に余も取りて最上の賜ものなりしと云ふべし右の新聞記者を訪問せし丁度正午頃まで晝飯時にも迫り居れば余は記者も請ふて午餐に同伴せんことを望み相携へて近傍の料理屋アストン樓と云へるよ抵れで食



事の間は互ひに種々の問答を爲し且つ飲み且つ談じて轉た情直なるを愛へたア歐洲の形勢は如何、英國内閣の近状は如何、米國現政府の處置は如何と云へる政治上の談柄は第一に彼我の間は起れる問題として遂には進んで各國政治法律の得失利弊も及べるは自然の順序にして彼の記者等は余に向ふて頻りは是等の問題を設け此方の胸中を窺ひ見んと欲するの傍ら若くは政治上の議論を關して疑問もあらは遠慮なく問ひ試みるべし蓄へ居るだけの卑見は覆藏なく披陳すべしと云ふり然れども余は輕卒は彼の記者等と辨論を交へて政治上の問題を論議するを欲せず殊に彼等が而會早々斯る話の緒口を開けるも訝しければ余は只た其厚情を謝したるのみして敢て政治上の意見を述べず且つ云く先生等の斯く懇ろなる言を興へらるゝは誠に拙者の感佩は堪へざる所にして深く鳴謝する所なり元來拙者が政治上の問題に就て抱ける所の疑義と平生蘊積する所の卑見とを敢て少くも非らば今更邁達識なる先生等も就て胸中の宿疑を散し平昔の持論を吐露して高明の教示を得んこと拙者の最も希望する所にして偏も今日の好機を失するを恐ると雖も政治の問題は事頗る洪大よとて一朝一夕の能く盡すべき所非らば然るも拙者の滯遊や其期既も限りありて心身共々忙しく加ふるも先生等の業務亦た非常繁劇にして徒ら海外一孤客の爲めは割

す可きの時間乏しからん旁々拙者は今日敢て言の版論を渉るを欲せむ只た其希ふ所の要點は貴社實際の事務如何を觀察するの樂を得んと欲するも在り云々と是も於て孰れも話頭を一轉し新聞事業上の實際問題に移れり因て余は先づ編輯の手續を探訪通信の仕組より配達賣捌の方法に至るまで凡て我々の事業を取りて必要と思者せる廉々を質問したるに夫れく仔細に説示せり此上は其編輯印刷會計等の諸局を一覽せんと紐育にて最とも著大あるトリビューン社の樓上に登り先づ編輯局に入り順次各局を巡見せり器械場は何れの社も地下の最下層に設けありて絶えず燈火を點じ置けり器械場の主任者は記者の命より余が爲めに特々諸器械を運轉して叮嚀なる説明を興へり余が此社の摸樣を實見して心は識得したる利益の點の素より一二の少くも止らむ大も余をして實驗の學問を増さめたり要するは編輯と云ひ會計と云ひ又た器械と云ひ諸事簡便質素を旨と主人を勸勉して各自負擔の事業を勵むの一事も萬事の利得を促す源泉として畢竟米國富強の基因する所も亦た一個人が孜孜事業を勉勵なるの致す所も外ならん門外より仰て之を望めば巍峨たる傑閣雲々として玉壁燦爛として目を驚かすと雖も一たび室に入りて館内の實景を窺ひ去れば各室窓々として人語かく二三の役員机を對して一心不乱に働くを見るのみ毎朝幾十萬と云へる紙數



を發せざる世界の大新聞社ありとは思ひも寄らぬ有機なり日本の地方新聞も其雑沓と  
 人數とは遠く其上に出づべしと思はる是れ皆を時を惜で勉強すると人手を省ひて器械を利  
 用するとの結果あり試みよ一二の例を擧ぐれば日本も一二萬の新聞紙を印刷するよと大  
 抵五時間より十時間を要するがゆへ編輯の締め切りも紙數が多ければ多き丈けし時間を  
 早く切り上げざる可らき故に夜間少し遅く得たる重要な報道の其日の新紙も登載すること  
 能きも隨ふて之は伴ふの不利不便は職工の手數工錢と會計の繁雜と及ばし眞々の得失少  
 からせ然るに歐米各國の新聞社は使用せる印刷器械と何れも宏大なる蒸氣仕掛けにして一  
 時間少きも一二萬多きは四五萬を刷行を可きものあれば數十萬の紙數も十時間を出でせし  
 て刷り立て得可し其便否果して如何ぞや電報局も抵り見れば各國各地より電報四方より集  
 り來りて函中は落ち降ると怡あも雨の如く又た機如し彼地の新聞社では日本の如く電  
 報を電信局より配達し來るよ非らき皆を電信局と特約して私設電信支線を室内に通じ置き  
 諸所の通信者より飛來たる電報之皆を集りて此よ入るなり其盛ること驚くは堪へたり編  
 輯局を巡見せる時其一隅は大なる書物箱やふのものを立て置き其中を幾つよも仕切りて其  
 上よ一タニ、ヒ、シと横文字の符帳を付けざるものあり餘り見慣れざるものもへ何如ある川

よ供ひる手と問しあ是と内外國の有名なる人々の傳を書綴たるものよて學者政治家は云も  
 更らなり苟くも一技一能を以て世に顯はれたるものと其生前より豫じめ其人の履歷出所を  
 取調へ零傳の文章よ綴り置き其姓氏の頭字よ隨ふて此符帳の中よ入れ置くなり若し其人死  
 去する時の直ちに之を函中よ抜いて原稿よ付し翌日の新聞よ載せるなりと其用費實よ至れ  
 りと云ふ可し前年岩崎彌太郎氏の死去せし電報の倫敦よ送するや翌日のタイムズ新聞と直  
 ちよ同氏の零傳を掲載して我々よ一掃を喫せしめたることありしが今よして思ひ合すれば  
 成るほど左もありしあらんと合點せり是等と別段手數の懸る事よもあらねば日本の新聞記  
 者よても平生心懸け置き度と、存し歸朝後我社の諸兄よも話し合へり其外書籍室、庶務局  
 等巡見の際よ會得したる事柄よして摘記す可き處少きよ非ねど氣を厭ふて此よ省けり

グラント將軍の墓

南北戰爭以來其名を天下よ轟かしたる米國の一豪傑よして殊よ我が日本よは最とも親愛の  
 友誼を表されたる名士グラント將軍は世人も知る如く一昨千八百八十五年の夏を以て溘焉  
 逝去せり當時米國人民の痛哭は云ふも更らあり我が日本の人民も亦た奉て一朝此の敬愛を  
 可き英雄を失ふたるを悲悼するよ至れり左れば思ひ徳を慕ふの米國人民と爾來頗りよ



奔走して資金を集め或は墓碑を建て或は記念標を設けんと其計畫一方ならず亦た以て將軍生前の功徳と米民義侠の精神とを見るに足る可し余の將軍を敬慕するや久し不幸にして生前一たひ儀容を仰ぐの機を得せ空しく幽冥を隔て、不遇を訴ふるの人となれり憾み何ぞ云ふ可けん今又圖らずも將軍桑梓の地を過ぎりて轉た感懐は堪へざるものあり費めて其墳墓を詣て、英魂を接せんものと思ひ立ち友人駒田氏と案内を頼み第十四街の停車場より例の高架鐵道を駕して行くこと里餘七十五街の停車場より左曲して復た行く十數丁よして達せり墓は沿河苑(リバー、サイド、パーク)の最高處クヲレモントと稱ふる卓頭より前には有各あるハドソン河の洪流を隔て、遙か大陸の風色は對し後へは一帶の曠野を控へて近く紐育の煙火を望む樹木扶疎、岡巒起伏、蕭條たる状景忽ち塵襟を洗ふて仙境に入るの想あり漸く墓前より近いて前面を仰視すれば十三星の國旗は翻騰として寒風は颯り參詣の老弱より捧げたる朶花を雲を作して柵前より堆し門外よりは正服凛々しく短銃を脇挟んで非常を戒むる警護の査官兩名あり余等は即ち就いて恭しく禮を施し將軍の墓を謁せんことを請ふ警吏は直ち諾して之を誘き墓前より抵る余は脱帽跪坐默然たること良久し墓の全体は其規模意外より大ならず間口二間奥行三四間は過ぎざる圓棟平矮の赤練瓦造りにして思ふたより

は無造作なり併しながら是れ畢竟其墳墓を丸出し露出したるは因るものにて往々大の靈廟を建て、之を覆ふに至らば必らず壯觀目を驚かすに至る可し此日は朝來雪催ひにて彫雲厚く掩ひ朔風凜烈として寒威堪へ難さよも拘はらず遠近より馬車轡を驅りて附で來れる貴賤男女少うら老門前爲る雜沓す嗚呼丈夫生れて此に至る死すと雖も何をか憾まん將軍の英魂亦地下に瞑するに足らん歟猶ほ墓前を徘徊すること多時ハドソン河畔の風光を弄しつ、漫歩堤に沿ふて紐育の寓は歸しは斜陽漸く殘光を収て暮色蒼然たるの頃なりさ

土耳其風の湯、露西亞流の湯

日本人か海外は行て不便不自由を感ぜることば種々標々あるが中よ洗湯の如きは若當坐の二三ヶ月間尤も不自由不愉快な覺ゆるもの、第一なり一体西洋人は入湯の度數甚だ少く多きも一ヶ月兩三回少きは半年一年に一度位は止まる習慣にて餘り度びく湯に入る者は却て其身體が不潔ある故ならんなど、誹謗さる、次第、日本とは全く反對の風俗なれば平生毎日のやふに入浴し來りし我々日本人の實に心持惡くして堪へ難き思あり左りとて日本は居る心持よて度々入湯せんとせば當だに彼地一般の習俗は戻れる奇物視さる、のみならず一度の湯錢も三十錢四十錢よ上るを以て貧生には隨分迷惑の至りなり旁々不自由不



念を忍びつ、一月二月と送るうちには習慣性を爲して終には何とも思はぬやふになるが常なり斯く西洋人は平生入湯の度數少く止た毎朝全身を拭ふて僅かに其清潔を保つ次第なれば偶々浴する時日本人の如く數分時間にして飛出すが如き早風呂主義を取らざれば一時前後の長湯を爲して細かく奇麗に全身を掃除し積れる汚垢を滌ひ去るを例とす是れ歐米各地一般の風習あり扱て西洋人が平常用ゆる普通の風呂は今余が説明を爲さずとも世人の熟知する所なれば此れは申さず只た彼地にて流行せる土耳其流露西亞風の風呂にては頗る奇よして未だ親しく海外遊歴せざる人々には随分珍らしき心地せらる、方あらんと存せれば此は其大畧を述べし

土耳其風と云ひ露西亞流と云ひ共其本國へ行はる、風を移し來て歐米の各都市を構造し以て浴客を供するものあれば一たび此湯に入らば粗ば其國風の一部をも推察することを得可し尤も此の土耳其湯露西亞湯は倫敦までも紐育にても普通の洗湯の如く到る所左様に澤山の設けある譯は非らず府中の要所々々見受くる位に止まるなり例へば東京にて伊香保、磯部、有馬等諸所の温泉を取寄せ敷地此地に一二軒の浴場を見ると同様なり土耳其湯露西亞湯共蒸し風呂にして室内の鹽梅浴客の取扱等も粗ば相似たれば一體め其

況を記述す可し只だ其異なる所は土耳其風は室内に巨大なる石を置き之を烈火の如く燒立て、其温熱を全室内に充布するの仕掛なると露西亞風は之と違ひ室下蒸氣の裝置ありて酷烈なる蒸發氣の内室に充滿して温熱を保つ仕組なるとの差あるのみ此外は別段之と云ふ程の異同を見ず扱て浴客は先づ入口の受附に至りて湯錢を拂て手形を受取り時計懐中等大切の品物は此處に預け置いて切符を取り置くあり尤も度々往く人は日本の如く一度に多の湯札を買置くもあり湯錢は日本銀貨にして大抵三四十錢より一圓四五十錢まで場所により家よりて色々差別あり一様ならぬ湯錢拂濟の上奥へ這入れば已前の手形受取所ありて之に渡し夫れより靴脱ぎ部屋に至りて靴を脱げ監督の小僧ありて之を受取り傍はらの靴置棚に載せて何番々々と記したる合札を具る、こと丁度日本の寄席をどめて下足札を渡すと同じ趣向あり靴靴室を出づれば部屋番の若者客を導いて衣裝室に抵る此にて衣服を脱去し西洋手拭の長く廣さものを腰に纏ひ湯場へ赴くあり湯室の温度は大抵二三等に區別しあり第一は七八十度第二は九十度前後第三は百度内外と云ふが如く漸次に熱を加ふ元來西洋にては皮膚を露出すること最も失禮にて婦人の禮服を着けたる時の外は男女共身軀を包み回はして毫も膚を現さず一般洗湯の如きも一人一部屋取り切りにして衣服の着脱さむ



其一室内は於てする位に嚴重なれど此土取其湯、露西亞湯は限りての男女の區別こそあれ  
 多人敷入り込みて湯治の間は何れの部屋へも皆赤裸にして我れ人共赤條々一絲を  
 掛けずアナヲコナヲに往來するあり日本の如く始終平氣にて皮膚を露し人々對して恬然怪  
 ざる風俗より見れば何でもなさことなれや行儀正しき西洋までは随分奇妙の思を爲すあ  
 り殊に日本人は全体皮膚の色茶黒くして如何の色白と稱する人よりも白哲人種の中より  
 ては黒白非常を目立ちて見へ骨格の小弱と云ひ膚の汚點と云ひ随分氣の引ける程の區別あ  
 り平生は西洋人を平呑して何れ彼等かと強情に懸張り居る余の如き顔面生る此れは毎度  
 閉口してうち耻かしき心地せり

西洋風俗記 終

明治十九年十二月七日出版御届  
 明治二十年五月出版

定價三圓

兵庫縣平民

編輯兼出版人

赤松市太郎

大阪府東區今橋二丁目廿六番地

大阪心齋橋北詰四番地

發 兌 所

駿 々 堂 本 店

神戸多門通二丁目

同

同 出 張 店







